本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第 1 章　はじめに

各部の名称と働きや電源の入れかた／切りかたなど、本パソコンを使用するうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

第 2 章　ハードウェアについて

本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）機器について、基本的な取り扱いかたなどを説明しています。

第 3 章　BIOS セットアップ

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法についても説明しています。なお、BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

第 4 章　困ったときに

本パソコンにトラブルが発生したときや、メッセージが表示されたときなど、どうすればいいのかを説明しています。必要に応じてお読みください。

第 5 章　技術情報について

本パソコンの仕様などを記載しています。

目次

第 3 章　BIOS セットアップ

第 4 章　困ったときに

第 5 章　技術情報について

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

本書には、本パソコンを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。
本パソコンをお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、添付の『安全上のご注意』をよくお読みになり、理解されたうえで本パソコンをお使いください。
また、本書および『安全上のご注意』は、本パソコンの使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

本装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

注 意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるように要求されることがあります。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。
国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化促進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリ及び複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ ）は、参加各国の間で統一されています。

本装置は、社団法人電子情報技術産業協会が定める高調波ガイドラインの適用対象外です。

本装置の使用環境は、温度 5 ～ 35 ℃、湿度 20 ～ 80% です。また、保存環境は、温度 -10 ～ 60 ℃、湿度 20 ～ 80% です。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。
お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。
ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

- 原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

本製品には、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスクなど）が含まれており、長時間連続で使用した場合、早期の部品交換が必要になります。

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Intel および Pentium は、米国インテル社の登録商標です。
Celeron は、米国インテル社の商標です。
Puma Technology, Intellisync は米国プーマテクノロジー社の商標です。
Phoenix は、米国 Phoenix Technologies 社の登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

⚠	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
⃠	⃠で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
❗	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
••▶	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy  a:  a:
         ↑   ↑
```

↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

■ 画面例

本書に記載されている画面は一例です。お使いのパソコンに表示される画面やファイル名などと異なる場合があります。ご了承ください。

■ イラスト

本書に記載されているイラストは一例です。取り付けるオプションによっては、お使いのパソコンと異なる場合があります。ご了承ください。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」をクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「－」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。

例：「メイン」メニューの「フロッピーディスク A」の項目を「使用しない」に設定します。

↓

「メイン」－「フロッピーディスク A」：使用しない

■ お問い合わせ先／ URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2001 年 4 月現在のものです。変更されている場合は、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口へお問い合わせください（••▶『修理サービス網一覧表』参照）。

■ カスタムメイドオプション

本文中の説明は、すべて標準仕様に基づいて記載されています。
そのため、カスタムメイドオプションを取り付けている場合、メモリ容量やハードディスク容量などの記載が異なります。ご了承ください。

■ 製品の呼びかた

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記します。

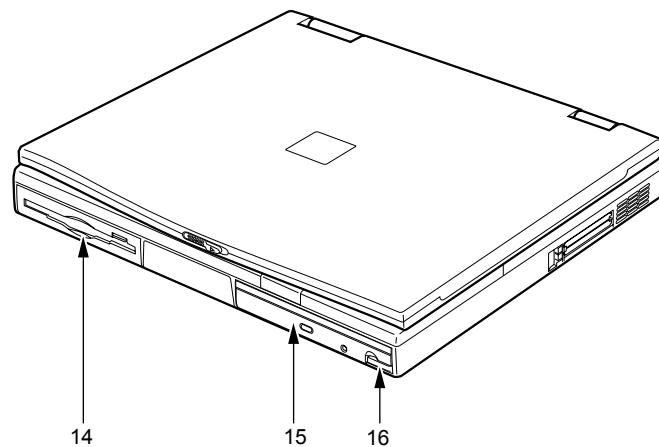
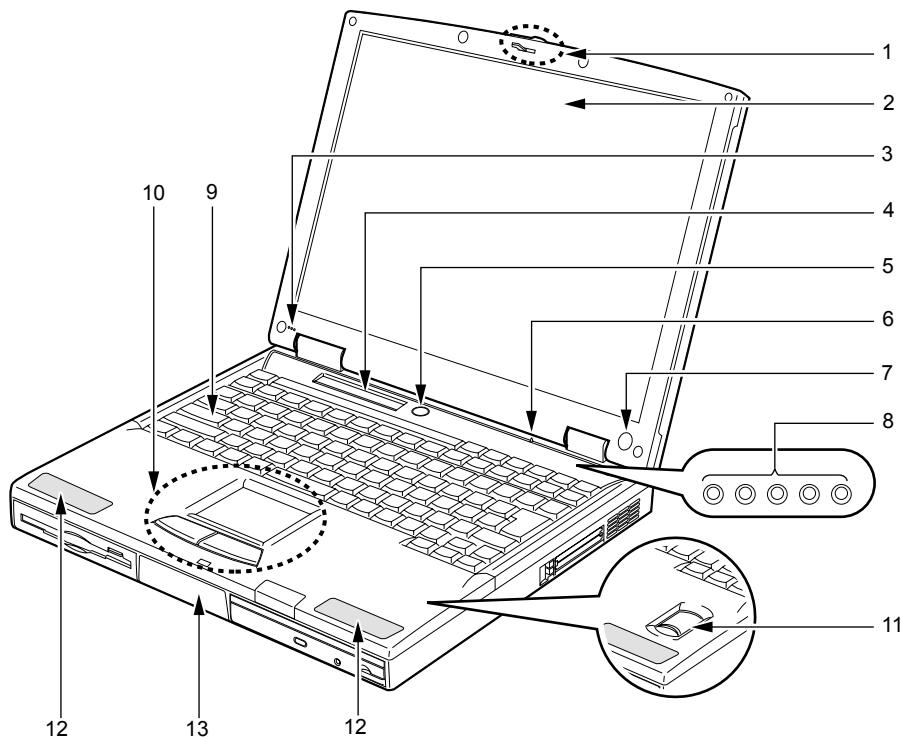
製品名称	本書での表記	
Microsoft® Windows®Millennium Edition	Windows Me	Windows
Microsoft® Windows®98 operating system SECOND EDITION	Windows 98	
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000	
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version4.0	Windows NT	
Microsoft® MS-DOS® Operating System	MS-DOS	
Intellisync® for Notebooks	Intellisync	
ドライバーズ CD ／マニュアル CD	ドライバーズ CD	
FMV-LIFEBOOK	本パソコンまたはパソコン本体	

第 1 章

はじめに

各部の名称と働きや電源の入れかた／切りかたなど、本パソコンを使用するうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

1 各部の名称と働き

パソコン本体前面

1 ラッチ

液晶ディスプレイが不用意に開かないようにロックします。
液晶ディスプレイを開くときは、右にスライドしてロックを外します。

2 液晶ディスプレイ

本パソコンの画面を表示します。

POINT

- 液晶ディスプレイの特性について
以下は液晶ディスプレイの特性なので故障ではありません。あらかじめご了承ください。
・本パソコンの TFT カラー液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に 235 万個以上（解像度 1024 × 768 の場合）の画素（ドット）より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
・本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。

3 内蔵マイク

音声（モノラル）を録音できます。

POINT

- カラオケソフトなど､マイクとスピーカーを同時に使用するソフトウェアをお使いの場合､ハウリングが起きる場合があります。このようなときは、音量を調整するか、市販のヘッドホンや外付けマイクをお使いください。また、マイクを使用していないときは、マイクを「ミュート」（消音）にしてください（··▶『ソフトウェアガイド』参照）。
- 内蔵マイクをお使いの場合は、液晶ディスプレイを閉じないでください。ハウリングを起こす場合があります。
- 内蔵マイクから録音する場合、音源との距離や方向によっては、音がひろいにくい場合があります。クリアな音声で録音したい場合には、外付けマイクを使用されることをお勧めします。

4 状態表示 LCD（エルシーディー）

本パソコンの状態が表示されます。
「状態表示 LCD について」（··▶P.19）

5 SUS/RES（サスレス）スイッチ

パソコン本体をサスペンド（一時停止）／レジューム（再開）させるためのスイッチです。

6 カバークローズスイッチ

液晶ディスプレイを開閉したときに、本パソコンをサスペンド（一時停止）／レジューム（再開）させたり、液晶ディスプレイのバックライトを消灯させたりするためのスイッチです（··▶『ソフトウェアガイド』参照）。

7 ワイヤレスマウス受光部（ワイヤレスマウス添付モデルのみ）

ワイヤレスマウスの赤外線信号を受信します。
「ワイヤレスマウスについて」（··▶P.76）

8　セキュリティボタン（セキュリティボタン搭載モデルのみ）

お使いのモデルにより、セキュリティボタンを搭載しています（••▶『セキュリティボタン取扱説明書』参照）。
添付の「セキュリティボタン」で設定したパスワードの入力や、添付の「ワンタッチボタン設定」で割り当てたアプリケーションの起動や新着 E メールの受信などを行うボタンです。添付の「セキュリティボタン」または「ワンタッチボタン設定」をインストールすると、使用することができます（••▶『ソフトウェアガイド』参照）。
「セキュリティについて」（••▶P.88）

9　キーボード

文字を入力したり、パソコン本体に命令を与えます。
「キーボードについて」（••▶P.26）。

10　フラットポイント

マウスポインタを操作します（••▶P.22）。
お使いのモデルによっては、内蔵ポインティングデバイスの代わりにマウス（••▶P.24）が添付されている場合があります。

11　指紋センサー（指紋センサーモデルのみ）

お使いのモデルにより、指紋センサーを搭載しています（••▶『指紋センサー取扱説明書』参照）。
指紋を識別してセキュリティを解除します。
「セキュリティについて」（••▶P.88）

12　スピーカー

本パソコンの音声が出力されます。

13　内蔵バッテリパック

内蔵バッテリパックが装着されています。
「内蔵バッテリパックを交換する」（••▶P.47）

14　フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクを読み書きします（••▶P.67）。

15　マルチベイ

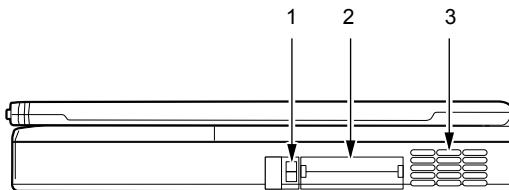
お使いのモデルにより、次のいずれかが取り付けられています。
・内蔵 CD-ROM ドライブユニット
・内蔵 CD-R/RW ドライブユニット
・マルチベイ用カバー
「マルチベイユニットについて」（••▶P.61）

POINT

▶ マルチベイが空の状態では本パソコンを使用しないでください。故障の原因となります。

16　マルチベイユニット取り外しボタン

マルチベイに取り付けられているユニットを取り外す場合に使用します（••▶P.62）。

パソコン本体右側面

1　PC（ピーシー）カード取り出しボタン

PC カードを取り出すときに押します。

「PC カードを取り出す」（▶P.54）

2　PC カードスロット

PC カードをセットするためのスロットです（▶P.53）。

下段がスロット 1、上段がスロット 2 です。

POINT

- お使いになる OS によっては「スロット 1」を「スロット 0」、「スロット 2」を「スロット 1」に読み替える場合があります。

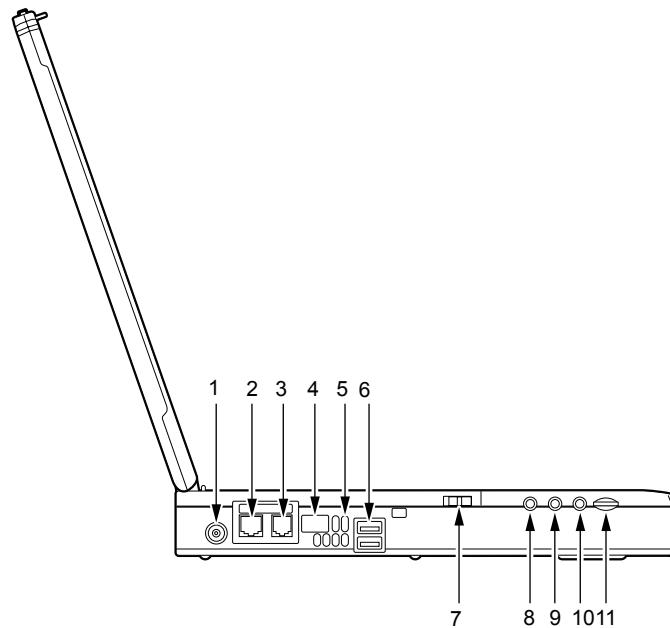
3　空冷用ファン

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのファンです。

パソコン本体内部の温度が高くなると回転します。

⚠注意

- 空冷用ファンの穴はふさがないでください。
パソコン本体内部に熱がこもり、故障の原因となることがあります。

パソコン本体左側面

1 DC-IN（ディーシーイン）コネクタ

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

2 LAN（ラン）コネクタ（LAN 搭載モデルのみ）

お使いのモデルにより、LAN コネクタを搭載しています（▶P.71）。
LAN ケーブルを接続します。

3 モジュラーコネクタ（モデム搭載モデルのみ）

お使いのモデルにより、モジュラーコネクタを搭載しています（▶P.69）。
インターネットやパソコン通信をするときに、モジュラーケーブルを使ってパソコン本体と電話回線を接続するためのコネクタです。

4 赤外線通信ポート（Windows NT ではサポート外）

赤外線通信を行うためのインターフェースです。

POINT

- 赤外線通信ポートは、Windows 98 モデルにインストールされているアプリケーション「Intellisync」にてお使いになれます。また、Windows Me モデルまたは Windows 2000 モデルでは、「ワイヤレスリンク」にてお使いになれます（▶『ソフトウェアガイド』参照）。
- 赤外線通信を行っているときは、赤外線通信ポートにACアダプタや外部ディスプレイを近づけないでください。ノイズによる誤動作の原因となります。

5　吸気孔

空冷用ファンが空気を取り込むための穴です。

⚠注意

- 吸気孔はふさがないでください。
  パソコン本体内部に熱がこもり、故障の原因となることがあります。

6　USB（ユーエスビー）コネクタ（Windows NT ではサポート外）

USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続します。2 ポートあります。USB 規格の周辺機器をどちらのポートに接続してもかまいません。

7　MAIN（メイン）スイッチ

本パソコンの主電源スイッチです。

⚠注意

聴力障害

- ヘッドホン・ジャック、ラインイン・ジャック、マイクイン・ジャックに接続するときは、パソコン本体の音量を最小にしてから接続してください。
  機器が破損したり、刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

8　マイクイン・ジャック

市販のマイクを接続し、音声（モノラル）を録音するための端子です（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。

ただし、市販されているマイクの一部の機種（ダイナミックマイクなど）には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

9　ラインイン・ジャック

AV 機器などの出力（LINE OUT）ジャックと接続するためのアナログ入力（LINE IN）端子です（外径 3.5mm のステレオミニプラグに対応）。

10　ヘッドホン・ジャック

市販のヘッドホンを接続するための端子です（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。

⚠注意

聴力障害

- ヘッドホンなどをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

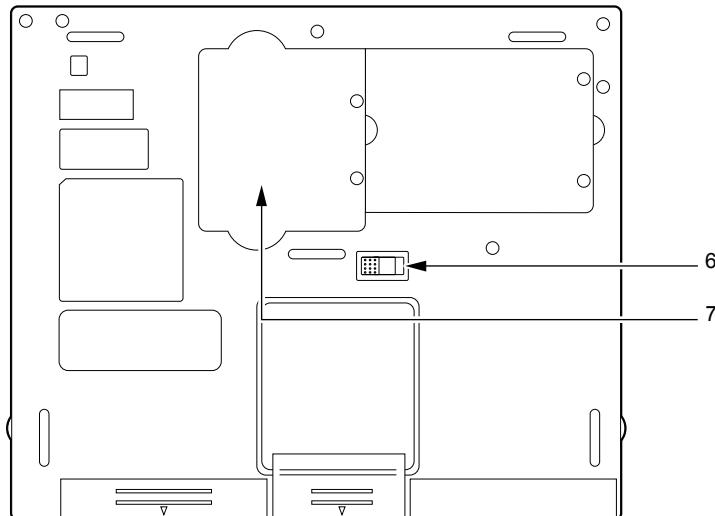
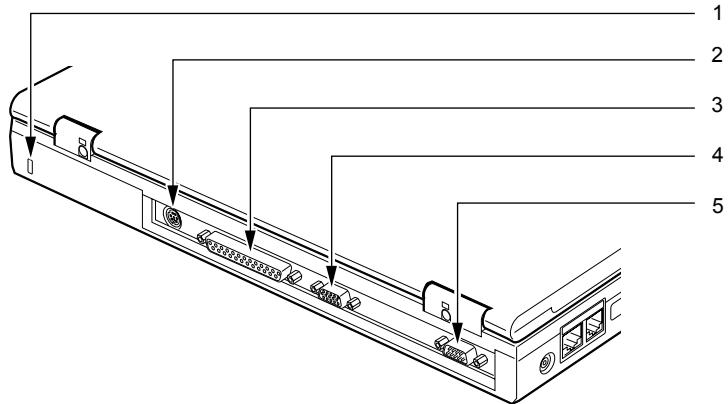
- ヘッドホンなどをしたまま電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

11 音量ボリューム

音量を調節します。手前側に回すと小さく、奥側に回すと大きくなります。
音量ボリュームでは、タスクバーの音量アイコンをクリックして表示される音量つまみで設定した音量を最大音量とし、その範囲で音を小さくしたり大きくしたりできます。
音声入出力時のバランスや音量などは、「ボリュームコントロール」または「Volume Control」などのダイアログボックスで設定できます（▶『ソフトウェアガイド』参照）。

POINT

- 音量ボリュームで音量を調節しても音が聞こえない場合は、ピーという音がするまで【Fn】キーを押しながら【F3】キーを押してください。また「ボリュームコントロール」または「Volume Control」などのダイアログボックスの設定がミュート（消音）になっていないか確認してください。

パソコン本体背面／下面

1 盗難防止用ロック

市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

POINT

- 盗難防止用ロックは、Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。
  商品名：マイクロセーバー（セキュリティワイヤー）
  商品番号：0522010
  （富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：03-3342-5375）

2 拡張キーボード／マウスコネクタ

PS/2 規格のマウス（▶P.24）やテンキーボード（▶P.83）を接続するためのコネクタです。

3 パラレルコネクタ

プリンタなどを接続するためのコネクタです（••▶P.84）。

4 外部ディスプレイコネクタ

CRT ディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです（••▶P.86）。

5 シリアルコネクタ

RS-232C 規格のインターフェースを持つ機器を接続するためのコネクタです。

6 内蔵バッテリパックロック

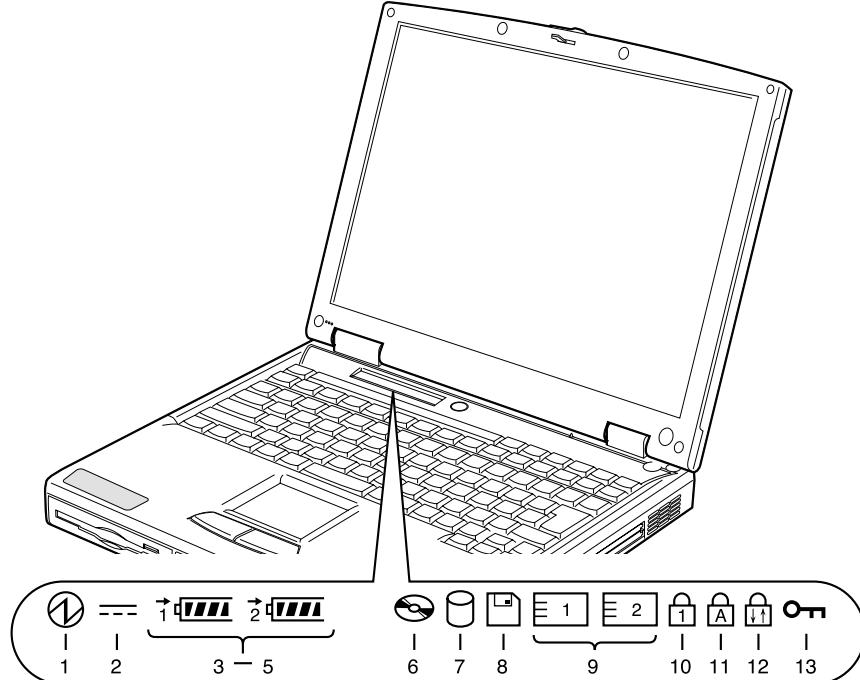
内蔵バッテリパックを取り外すときにスライドさせます。

7 拡張 RAM（ラム）モジュールスロット

本パソコンのメモリをセットするためのスロットです。
「メモリについて」（••▶P.57）

重 要

- 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

2 状態表示 LCD について

POINT

- MAIN スイッチが OFF の場合は、充電中を除いて状態表示 LCD の全表示が消灯します。

1 SUS/RES（サスレス）表示（ ）
本パソコンが動作状態のときに点灯し、サスペンド状態のときに点滅します。

2 AC（エーシー）アダプタ表示（ ）
AC アダプタから電源が供給されているときに点灯します。

3 バッテリ装着表示（1、2、 ）
バッテリが取り付けられているときに点灯します。1 は内蔵バッテリ（▶P.47）、2 はマルチベイの増設バッテリを表します。

4 バッテリ充電表示（ ）
バッテリが充電しているときに点灯します。また、バッテリが熱くなっていたり、冷えていて充電を行わない場合は点滅します。
「バッテリを充電する」（▶P.42）

5 バッテリ残量表示（ ）
バッテリの残量を表示します。
「バッテリ残量を確認する」（▶P.44）

6 CD アクセス表示（ ）
CD などにアクセスしているときに点灯します。POINT（▶P.21）もご覧ください。

7 ハードディスクアクセス表示（ ）
内蔵ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。POINT（••▶P.21）もご覧ください。

8 フロッピーディスクアクセス表示（ ）
フロッピーディスクやスーパーディスクにアクセスしているときに点灯します。POINT（••▶P.21）もご覧ください。

9 PC カードアクセス表示（ 1 、 2 ）
PC カードにアクセスしているときに点灯します。POINT（••▶P.21）もご覧ください。

10 Num Lock（ニューメリカルロック）表示（ ）
キーボードがテンキーモードのときに点灯します。【Num Lk】キーを押して、テンキーモードの設定と解除を切り替えます。
「テンキーモードについて」（••▶P.26）

11 Caps Lock（キャップスロック）表示（ ）
英大文字固定モード（英字を大文字で入力する状態）のときに点灯します。
【Shift】キーを押しながら【Caps Lock】キーを押して、英大文字固定モードの設定と解除を切り替えます。

12 Scroll Lock（スクロールロック）表示（ ）
画面をスクロールしないように設定（スクロールロック）したときに点灯します。
【Fn】キーを押しながら【Num Lk】キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。
点灯中の動作は、アプリケーションに依存します。

13 セキュリティ表示（ ）（セキュリティボタン搭載モデルのみ）
添付の「セキュリティボタン」でパスワードを設定している場合、パスワード要求時に点灯します。また、パソコン本体の電源を入れたときやレジューム時にセキュリティ表示が点灯したらパスワードを入力してください。

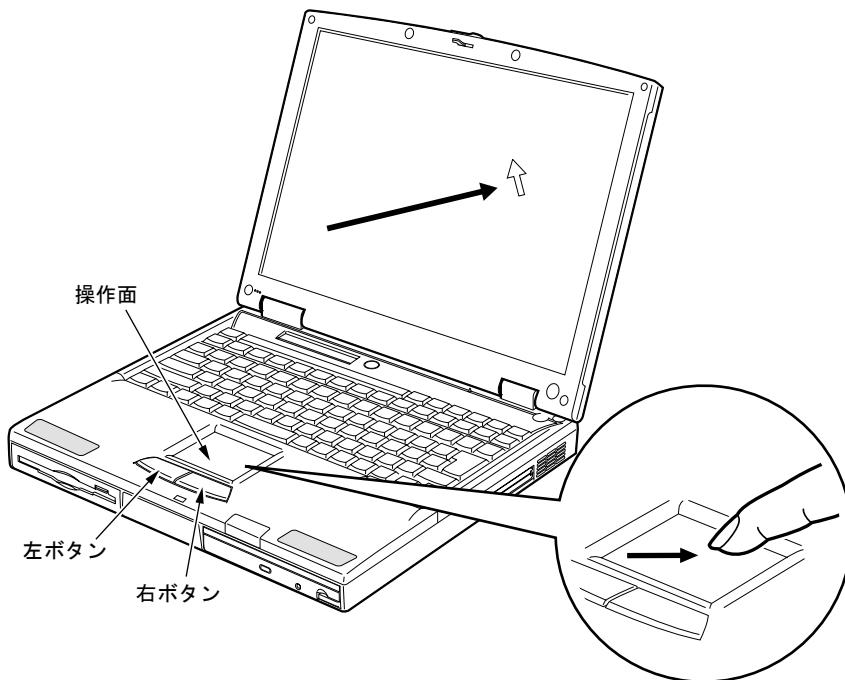
POINT

- ハードディスクアクセス表示やフロッピーディスクアクセス表示が点灯中に、MAINスイッチを OFF にしたり SUS/RES スイッチを操作すると、ハードディスクやフロッピーディスク、またはスーパーディスクのデータが壊れるおそれがあります。
- PC カードアクセス表示は、お使いになる OS によっては「スロット 1」を「スロット 0」、「スロット 2」を「スロット 1」に読み替える場合があります。
- Windows Me または Windows 98 では、CD の自動挿入が有効になっていると、定期的に CD の有無の検出が行われます。そのため、状態表示 LCD の CD アクセス表示が定期的に点灯します。自動挿入を無効にするには、次のように操作してください。
  1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
  2. 「システム」アイコンをクリックします。
  3. 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
  4. 「CD-ROM」をダブルクリックします。
     CD-ROM デバイスが表示されます。
  5. CD-ROM デバイスをクリックし、「プロパティ」をクリックします。
     「CD-ROM デバイスのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
  6. 「設定」タブをクリックします。
  7. 「オプション」の「挿入の自動通知」をクリックし、無効にします。
  8. 「OK」をクリックします。
  9. 「システムのプロパティ」ダイアログボックスの「OK」または「閉じる」をクリックします。
  10. Windows Me では「システム設定の変更」ダイアログボックスで「はい」をクリックします。Windows 98 では、「コントロールパネル」ウィンドウに戻ります。「スタート」ボタンをクリックし、本パソコンを再起動します。

  自動挿入を有効に戻すときは、手順 7 で「挿入の自動通知」をクリックし、チェックを付けます。

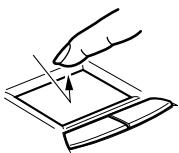
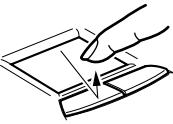
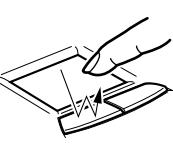
3 ポインティングデバイスについて

フラットポイント

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインタを動かすことのできる便利なポインティングデバイスで、操作面とその手前にある 2 つのボタンで構成されています。
操作面は、マウスでいえばボール部分の機能を持ち、操作面を上下左右に指先でなぞることにより画面上のマウスポインタを移動させます。また、軽くたたく（タップ）ことにより、クリックやダブルクリック、ポイント、ドラッグなどの操作を行うこともできます。
左右のボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はアプリケーションにより異なります。

POINT

- フラットポイントは、その動作原理上、お使いになる方の指先の乾燥度などにより、ポインティング動作に若干の個人差が発生する場合があります。
- 操作面は、湿気などにより結露したり、汚れが付着したりすると、誤動作を起こすことがあります。この場合は、乾いた柔らかい布で水分や汚れを拭き取ってください。また、汚れがひどい場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- PS/2 マウスを使用する場合は、「マウスについて」（••▶P.24）をご覧ください。
- USB マウスを使用する場合は、「USB マウスについて」（••▶P.74）をご覧ください。
- マウス（••▶P.24）を使用する場合は、フラットポイントとの同時使用についてなどを、BIOS セットアップの「キーボード／マウス設定」で設定する必要があります（••▶P.99）。

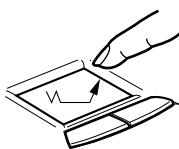
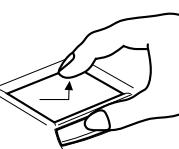
■ フラットポイントの使いかた

● クリック

操作面を 1 回タップ（軽くたたく）するか、左ボタンをカチッと 1 回押して、すぐ離すことです。
また、右ボタンを 1 回カチッと押すことを「右クリック」といいます。

● ダブルクリック

操作面を 2 回連続してタップするか、左ボタンをカチカチッと 2 回素早く押して、すぐ離すことです。ダブルクリックの速度は、「マウスのプロパティ」ダイアログボックスで調節できます。

● ポイント

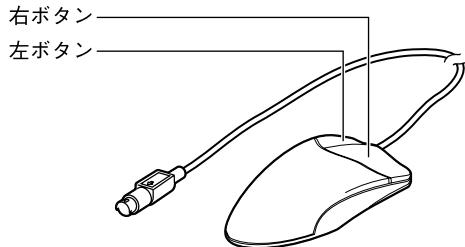
マウスポインタをメニューなどに合わせることです。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、そのメニューが表示されます。

● ドラッグ

マウスポインタを任意の位置に移動し、操作面を素早く 2 回タップします。2 回目のタップのときに指を操作面上から離さないで、希望の位置まで操作面をなぞり、指を離します。または、マウスポインタを任意の位置に移動し、左ボタンを押しながら希望の位置まで操作面をなぞり、指を離します。

POINT

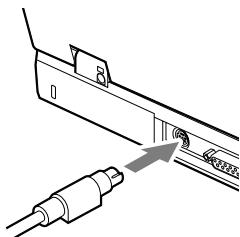
- 上記のボタンの操作は、「マウスのプロパティ」ダイアログボックスで「右利き用」に設定した場合の操作です。
- タップは、指先で軽く、素早く行ってください。また、力を入れて行う必要はありません。
- フラットポイントは、マウスポインタを移動させている場合、指先を持ち上げて異なる場所に降ろしても、画面上のマウスポインタは移動しません。指を降ろした位置から操作面をなぞると、そのなぞった方向に動きます。

マウスについて

本パソコンは、パソコン本体背面の拡張キーボード／マウスコネクタに、PS/2 規格のマウスを接続することができます。ここでは、マウスの接続などについて説明します。

PS/2 マウスの接続について

1 パソコン本体の電源を切るか（▶P.35）、サスペンドさせます。

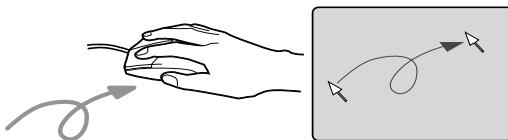
2 マウスを接続します。

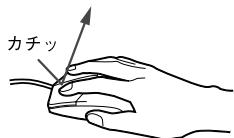
マウスをパソコン本体背面の拡張キーボード／マウスコネクタに接続します。このとき、コネクタに刻印されている矢印が下側になるように接続してください。

POINT

- 内蔵ポインティングデバイスが搭載されていないモデルでは、パソコン本体の電源を入れる前に、必ずマウスを接続してください。
- 内蔵ポインティングデバイスと併用する場合や、ホットプラグ機能については、BIOS セットアップの「キーボード／マウス設定」で設定します（▶P.99）。
- マウスは、定期的にクリーニングを行ってください（▶P.126）。

マウスの使いかた

■ マウスの動かしかた

マウスの左右のボタンに指がかかるように手をのせ、机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、画面上の矢印（これを「マウスポインタ」といいます）が同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。

■ ボタンの操作

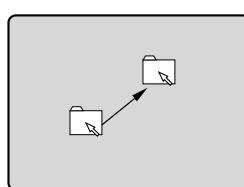
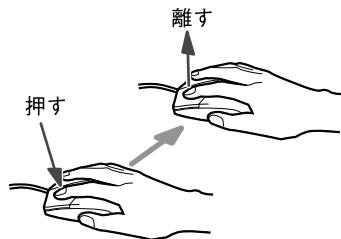
● クリック

マウスの左ボタンを1回カチッと押します。
また、右ボタンをカチッと押すことを「右クリック」といいます。

● ダブルクリック

マウスの左ボタンを2回連続してカチカチッと押します。

● ポイント

マウスポインタをメニューなどに合わせます。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、そのメニューが表示されます。

● ドラッグ

マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、希望の位置でボタンを離します。

POINT

▶ 上記のボタンの操作は、「マウスのプロパティ」ダイアログボックスで「右利き用」に設定した場合の操作です。

4 キーボードについて

OADG（オーエーディージー）キーボード

OADG キーボードの配列は、次のようになっています。

：制御キー
：文字キー

■ テンキーモードについて

文字キーの一部を通常の状態と切り替えて、テンキー（数値入力を容易にするキー配列）として使えるようにするモードを「テンキーモード」といいます。テンキーモードの切り替えは、【Num Lk】キーで行い（状態表示 LCD に を表示）、上図の太線で囲まれたキーがテンキーとなります。これらのキーで入力できる文字は、各キーの前面に刻印されています。

POINT

- 別売のテンキーボードを接続している場合に【Num Lk】キーを押してテンキーモードにすると、テンキーボードのテンキーが有効となり、パソコン本体のキーボードのテンキー部は無効となります。

■ 主なキーの名称と働き（OADG キーボード）

＋記号は、前述のキーを押しながら、後述のキーを 1 回押す動作を表しています。

【Esc】（エスケープ）キー

ソフトウェアの実行中の動作を終了します。

【F1】～【F12】（ファンクション）キー

アプリケーションごとに機能が異なります。

【Fn】（エフエヌ）キー

本パソコン独自のキーです。次のような働きがあります。

【Fn】＋【F3】	スピーカーの ON/OFF を切り替えます。本操作をして「ピッ」と音がした場合はスピーカーが ON、音がしない場合は OFF になっています。
【Fn】＋【F4】	BIOS セットアップの「内蔵ポインティングデバイス」（••▶P.100）の項目を「手動」に設定したときに、内蔵ポインティングデバイスの有効と無効を切り替えます（••▶P.75）。
【Fn】＋【F5】	液晶ディスプレイのみで表示している場合、全画面表示と通常表示を切り替えます。
【Fn】＋【F6】	液晶ディスプレイのバックライトを暗くします。
【Fn】＋【F7】	液晶ディスプレイのバックライトを明るくします。

POINT

- 【Fn】＋【F6】キーまたは【Fn】＋【F7】キーでのバックライトの明るさの調節は、8 段階に設定できます。

【Fn】＋【F10】	外部ディスプレイ接続時に、LCD のみの表示、外部ディスプレイのみの表示、LCD と外部ディスプレイの同時表示を切り替えます。

【Space】（スペース）キー

1 文字分の空白を入力するのに使います（キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーです）。

【↑】【↓】【←】【→】（カーソル）キー

カーソルを移動するときに使います。

【Enter】（エンター）キー

リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。改行したり、コマンドを実行したりします。

【Ctrl】（コントロール）キー

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。

【Shift】（シフト）キー

他のキーと組み合わせて使います。

【Alt】（オルト）キー

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。

【Caps Lock】（キャップスロック）キー

アルファベットを入力するときに使用します。【Shift】キーと一緒に押して、大文字／小文字を切り替えます。

【Num Lk】（ニューメリカルロック）キー

テンキーモードにするときに押します。再度押すと解除します。

【Scr Lk】（スクロールロック）キー

アプリケーションごとに機能が異なります。【Fn】キーと一緒に押します。

【Print Screen】（プリントスクリーン）キー

画面のハードコピーを取るときに押します。

【Pause】（ポーズ）キー

画面の表示を一時的に止めるときなどに押します。

【Break】（ブレーク）キー

アプリケーションごとに機能が異なります。

【Insert】（インサート）キー

文字を入力するときに、「挿入モード」と「上書モード」を切り替えます。

【Delete】（デリート）キー

文字を削除するときに押します。

また、【Ctrl】キーと【Alt】キーと一緒に押すと、本パソコンを再起動できます。

【Home】（ホーム）キー

カーソルを行の最初に移動するときに押します。

【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最初に移動します。

【End】（エンド）キー

カーソルを行の最後に移動するときに押します。

【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最後に移動します。

【Page Up】（ページアップ）キー

前の画面に切り替えるときに押します。

【Page Down】（ページダウン）キー

次の画面に切り替えるときに押します。

【Back Space】（バックスペース）キー

カーソルを左へ移動し、文字を削除するときに押します。

【SysRq】（システムリクエスト）キー

アプリケーションでサポートしている場合、キーボードを再起動するときなどに使用します。【Alt】キーと一緒に押します。

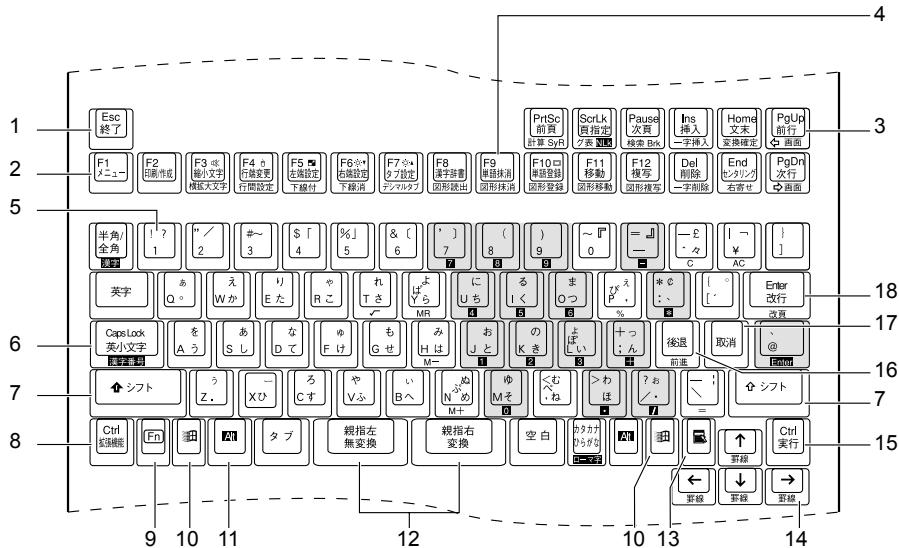
【 】（ウィンドウズ）キー

「スタート」メニューを表示するときに押します。

【 】（アプリケーション）キー

選択した項目のショートカットメニューを表示するときに押します。また、右クリックと同じ役割をします。

親指シフトキーボード

親指シフトキーボードの配列は、次のようになっています。

■ テンキーモードについて

文字キーの一部を通常の状態と切り替えて、テンキー（数値入力を容易にするキー配列）として使えるようにするモードを「テンキーモード」といいます。テンキーモードの切り替えは、【シフト】キーを押しながら【NLk】キーを押します（状態表示 LCD に 1 を表示）。これらのキーで入力できる文字は、各キーの前面に、ピンク色の四角の中にグレー色でプリントされています（上図の薄い色のついたキー）。

POINT

- 別売のテンキーボードを接続している場合に【シフト】キーを押しながら【NLk】キーを押してテンキーモードにすると、テンキーボードのテンキーが有効となり、パソコン本体のキーボードのテンキー部は無効となります。

■ 主なキーの名称と働き（親指シフトキーボード）

ここでは、各キーの一般的な名称と働き、および OASYS 固有の名称と働きについて説明します。

通常文字：一般的な説明です。

反転文字：OASYS 固有の説明で、他アプリケーションではこの機能は動作しません。

＋記号は、前述のキーを押しながら、後述のキーを 1 回押す動作を表しています。

1【Esc】（エスケープ）キー

ソフトウェアの実行中の動作を終了します。

1【終了】キー

現在行っている操作や機能を終了させます。

2【F1】～【F12】（ファンクション）キー

アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

3 各制御キー

カーソルを移動したり、文字を挿入／削除したりします。

・【PrtSc】（プリントスクリーン）キー

画面のハードコピーをとるときに押します。キーの前側面の【SyR】（システムリクエスト）は、アプリケーションがサポートしているとき、【Alt】キーと同時に押すと、アクティブになっているウィンドウのハードコピーを取ることができます。

・【ScrLk】（スクロールロック）キー

キーの前側面の【NLk】（ニューメリカルロック）は、テンキーモードに切り替えたいときに【シフト】キーと組み合わせて使用します。

・【Pause】（ポーズ）キー

ハードコピーの出力などの操作を、一時的に止めるときに押します。キーの前側面の【Brk】（ブレーク）は、アプリケーションごとに機能が異なります。

・【Ins】（インサート）キー

文字を挿入／上書きの切り替えをするときに押します。

・【Home】（ホーム）キー

カーソルを行の最初に移動するときに押します。

【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最初に移動します。

・【PgUp】（ページアップ）キー

前の画面に切り替えるときに押します。

・【Del】（デリート）キー

文字を削除するときに押します。また、【Ctrl】キーと【Alt】キーを一緒に押すと、本パソコンを再起動できます。

・【End】（エンド）キー

カーソルを行の最後に移動するときに押します。

【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最後に移動します。

・【PgDn】（ページダウン）キー

次の画面に切り替えるときに押します。

4【機能】キー

OASYS で文書を編集したり、グラフや図を描くときには、キーの前側面や上面に日本語で書いてある機能を使います。各機能を使う場合は、次のように押します。

・キーの上面の機能（例：単語抹消）
　そのキーだけを押す
・キーの前側面の機能（例：図形抹消）
　【拡張機能】キーを押しながらそのキーを押す

5【1】～【0】（数字）キー

【拡張機能】キーや【シフト】キーと合わせて、OASYS の機能を使用できます。詳しくは、OASYSのヘルプのキー割り当て「OASYSキーボード（実行付note型）」をご覧ください。

6【Caps Lock】（キャップスロック）キー

アルファベットを入力するときに押します。【シフト】キーと一緒に押して、大文字／小文字を切り替えます。

7【シフト】キー

他のキーと組み合わせて使います。

8【Ctrl】（コントロール）／【拡張機能】キー

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。OASYS では、機能キーと組み合わせて使います。

9【Fn】（エフエヌ）キー

本パソコン独自のキーです。次のような働きがあります。

【Fn】＋【F3】	スピーカーの ON/OFF を切り替えます。 本操作をして「ピッ」と音がした場合はスピーカーが ON、音がしない場合は OFF になっています。
【Fn】＋【F4】	BIOS セットアップの「内蔵ポインティングデバイス」（▶P.100）の項目を「手動」に設定したときに、内蔵ポインティングデバイスの有効と無効を切り替えます。
【Fn】＋【F5】	液晶ディスプレイのみで表示している場合、全画面表示と通常表示を切り替えます。
【Fn】＋【F6】	液晶ディスプレイのバックライトを暗くします。
【Fn】＋【F7】	液晶ディスプレイのバックライトを明るくします。

POINT

▶【Fn】＋【F6】キーまたは【Fn】＋【F7】キーでのバックライトの明るさの調節は、8 段階に設定できます。

【Fn】＋【F10】	外部ディスプレイ接続時に、LCD のみの表示、外部ディスプレイのみの表示、LCD と外部ディスプレイの同時表示を切り替えます。

10【 】（ウィンドウズ）キー
「スタート」メニューを表示するときに押します。

11【Alt】（オルト）キー
ほかのキーと組み合わせて使います。
アプリケーションごとに機能が異なります。

12【親指左／無変換】、【親指右／変換】キー
ひらがなやカタカナ、そして漢字を書くときに使います。通常の親指シフトキーボードと違い、親指左／右と無変換／変換が同一のキーに割り当てられています。
また、英字入力モードのときに【親指左／無変換】キーを押すと、かな入力モードになり、【親指右／変換】キーを押すと空白が入力されます。

13【 】（アプリケーション）キー
選択した項目のショートカットメニューを表示するときに押します。
また、右クリックと同じ役割をします。

14【↑】【↓】【←】【→】（カーソル）キー
カーソルを移動します。

15【実行】キー
選んだメニューや機能を実行するときに使います。
このキーは、【Ctrl】キーとしては働きません。

16【後退】キー
カーソルを左へ移動し、カーソルを後退させます。
OASYS では、【拡張機能】キーと同時に押すと、カーソルが右へ移動します。

17【取消】キー
1つ前の動作を取り消します。

18【Enter】（エンター）／【改行】キー
リターンキーともいいます。
文を改行したり、コマンドを実行したりします。
OASYS では、【拡張機能】キーと同時に押すと、改頁になります。

5 電源を入れる

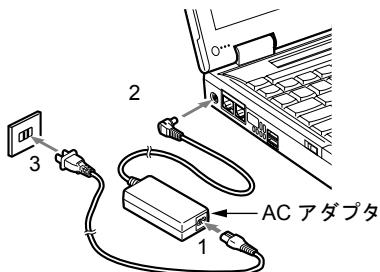
注意事項

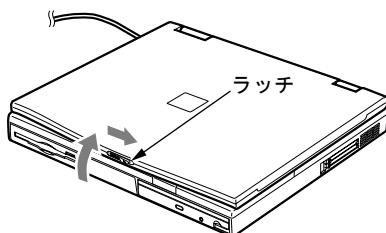
- 内蔵ポインティングデバイスが搭載されていないモデルでは、電源を入れる前に必ずマウスを接続してください。
- 電源を入れたら、持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。故障の原因となります。
- 電源を入れる場合、フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブにディスクがセットされていたら、取り出してください。
- マルチベイに何も取り付けていない状態で電源を入れないでください。故障の原因となります。
- 電源を入れる際、ノイズが発生することがあります。その場合は、音量を下げてお使いください（••►P.16）。

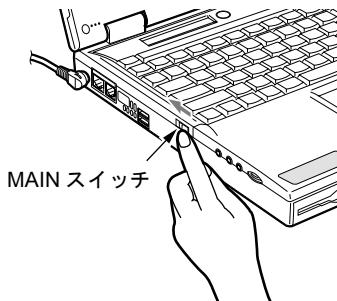
電源の入れかた

ここでは、本パソコンの通常の電源の入れかたについて説明します。

1 **AC アダプタを接続します。**

AC アダプタのコードを接続し（1）、パソコン本体の DC-IN コネクタに接続します（2）。その後、プラグをコンセントに接続します（3）。

2 **液晶ディスプレイを開きます。**

前面のラッチを右にスライドしてロックを外し、液晶ディスプレイに手をそえて持ち上げます。

3 パソコン本体の MAIN スイッチを ON にします。

パソコン本体に電源が入り、POST（自己診断画面）が始まります。また、状態表示 LCD の ⏻ などが点灯します。

POINT

- POST とは、Power On Self Test（パワーオンセルフテスト）の略で、パソコン内部に異常がないか調べる自己診断テストです。本パソコンの電源が入ると自動的に行われ、OS の起動直前に完了します。
- POST 中に電源を切ると、自己診断テストが異常終了したと診断されます。本パソコンでは、自己診断テストの異常終了回数をカウントしており、3 回続いた場合、4 回目の起動時にエラーメッセージ（••▶P.114）を表示します。POST 中は、不用意に電源を切らないでください。

6 電源を切る

注意事項

- MAIN スイッチを OFF にする場合は、OS を終了させるか休止状態にして、状態表示 LCD（••▶P.19）の SUS/RES 表示（ ）が消えたことを確認してから行ってください。
- サスペンド時に MAIN スイッチを OFF にする場合は、本パソコンをいったんレジュームさせ、データの保存をし、OS を終了させてから行ってください。
- 一度電源を切り、再度電源を入れる場合は、10 秒ほど待ってから操作してください。
- 本パソコンの電源を切る場合は、あらかじめ CD やフロッピーディスクなどを取り出してください。
- 電源を切る際、ノイズが発生することがあります。その場合は、音量を下げてお使いください（••▶P.16）。
- 次の場合は MAIN スイッチを OFF にしてください。
  ・本パソコンを携帯するとき
  ・周辺機器の取り付けや取り外しを行うとき
  ・バッテリ残量が少ないときや節電したいとき

電源の切りかた

■ Windows Me の場合

1 「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックします。

「Windows の終了」ダイアログボックスが表示されます。

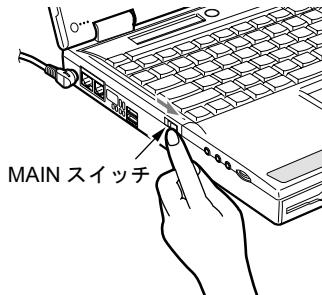
2 「終了」が選択されていることを確認して、「OK」をクリックします。

OS が終了し、本パソコンの電源が切れます。また、状態表示 LCD の ⏻ が消えます。

POINT

- 手順2のあとMAINスイッチをOFFにしなければ、次回電源を入れるときはSUS/RESスイッチを押せば電源が入ります。
- 手順 1 で表示される画面で、「再起動」を選択すると、本パソコンを再起動することができます。再起動とは、メモリに入っている情報をいったん消して、再びフロッピーディスクやハードディスクなどから OS を読み込み直すことです。
- 手順 1 で表示される画面で、「スタンバイ」を選択すると、本パソコンが省電力状態になります（••▶『ソフトウェアガイド』参照）。

3 MAIN スイッチを OFF にします。

MAIN スイッチを矢印の方向（○側）へスライドさせます。

POINT

- このあと、本パソコンを長期間使用しない場合は、AC アダプタやバッテリパックを取り外してください。

■ Windows 98 の場合

1 「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックします。

「Windows の終了」ダイアログボックスが表示されます。

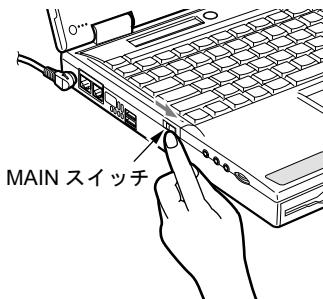
2 「電源を切れる状態にする」が選択されていることを確認して、「OK」をクリックします。

OS が終了し、本パソコンの電源が切れます。また、状態表示 LCD の ⏻ が消えます。

POINT

- 手順2のあとMAINスイッチをOFFにしなければ、次回電源を入れるときはSUS/RESスイッチを押せば電源が入ります。
- 手順 1 で表示される画面で、「再起動する」を選択すると、本パソコンを再起動することができます。再起動とは、メモリに入っている情報をいったん消して、再びフロッピーディスクやハードディスクなどから OS を読み込み直すことです。
- 手順 1 で表示される画面で、「スタンバイ」を選択すると、本パソコンが省電力状態になります（••▶『ソフトウェアガイド』参照）。

3 MAIN スイッチを OFF にします。

MAIN スイッチを矢印の方向（○側）へスライドさせます。

POINT

- このあと、本パソコンを長期間使用しない場合は、AC アダプタやバッテリパックを取り外してください。

■ Windows 2000 の場合

1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。

「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。

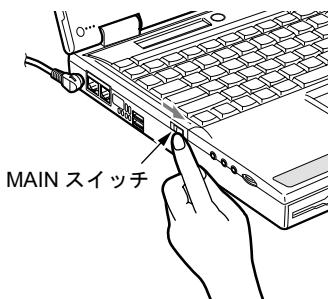
2 「シャットダウン」が選択されていることを確認して、「OK」をクリックします。

OS が終了し、本パソコンの電源が切れます。また、状態表示 LCD の ⏻ が消えます。

POINT

- 手順2のあとMAINスイッチをOFFにしなければ、次回電源を入れるときはSUS/RESスイッチを押せば電源が入ります。
- 手順 1 で表示される画面で、「再起動」を選択すると、本パソコンを再起動することができます。再起動とは、メモリに入っている情報をいったん消して、再びフロッピーディスクやハードディスクなどから OS を読み込み直すことです。
- 手順 1 で表示される画面で、「スタンバイ」または「休止状態」を選択すると、本パソコンが省電力状態になります（••▶『ソフトウェアガイド』参照）。
- 次のように電源を切ることもできます。
  1. 【Ctrl】キーと【Alt】キーを押しながら【Delete】キーを押します。
     「Windows のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
  2. 「シャットダウン」をクリックします。
     「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
  3. 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。
     電源が自動的に切れます。

3 MAIN スイッチを OFF にします。

MAIN スイッチを矢印の方向（○側）へスライドさせます。

POINT

- このあと、本パソコンを長期間使用しない場合は、AC アダプタやバッテリパックを取り外してください。

■ Windows NT の場合

1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。

「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。

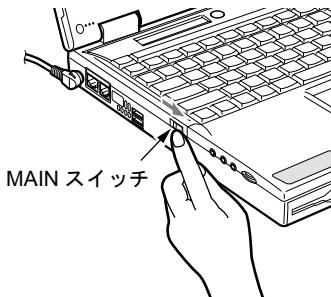
2 「コンピュータをシャットダウンする」が選択されていることを確認して、「はい」をクリックします。

OS が終了し、本パソコンの電源が切れます。また、状態表示 LCD の ⏻ が消えます。

POINT

- 手順 2 で表示される画面で、「コンピュータを再起動する」を選択すると、本パソコンを再起動することができます。再起動とは、メモリに入っている情報をいったん消して、再びフロッピーディスクやハードディスクなどから OS を読み込み直すことです。
- 次のように電源を切ることもできます。
  1. 【Ctrl】キーと【Alt】キーを押しながら【Delete】キーを押します。
  2. 「WindowsNT のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されたら、「シャットダウン」をクリックします。
  3. 「コンピュータのシャットダウン」ダイアログボックスが表示されたら、「シャットダウン後、電源を切る」を選択して「OK」をクリックします。
     電源が自動的に切れます。

3 MAIN スイッチを OFF にします。

MAIN スイッチを矢印の方向（○側）へスライドさせます。

POINT

- このあと、本パソコンを長期間使用しない場合は、AC アダプタやバッテリパックを取り外してください。

7 再起動する

再起動方法

アプリケーションをインストールした場合や、使用中のソフトウェアが何らかの理由で動かなくなった場合などに、パソコン本体を再起動させます。

POINT

- 再起動させると、メモリ内のデータが消失します。再起動させる前に、必要なデータは保存してください。

■ Windows Me の場合

1 「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックします。
「Windows の終了」ダイアログボックスが表示されます。

2 「再起動」を選択して「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動されます。

POINT

- 上記のように再起動ができない場合は、次のように再起動してください。
  1. 【Ctrl】キーと【Alt】キーを押しながら【Delete】キーを押します。
     「プログラムの強制終了」ダイアログボックスが表示されたら、メッセージに従って、操作してください。

■ Windows 98 の場合

1 「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックします。
「Windows の終了」ダイアログボックスが表示されます。

2 「再起動する」を選択して「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動されます。

POINT

- 上記のように再起動ができない場合は、次のように再起動してください。
  1. 【Ctrl】キーと【Alt】キーを押しながら【Delete】キーを押します。
     「プログラムの強制終了」ダイアログボックスが表示されたら、メッセージに従って、操作してください。

■ Windows 2000 の場合

1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。

「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。

2 「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。

本パソコンが再起動されます。

POINT

- 次のように再起動することもできます。
  1. 【Ctrl】キーと【Alt】キーを押しながら【Delete】キーを押します。
     「Windows のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
  2. 「シャットダウン」をクリックします。
     「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
  3. 「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。
     本パソコンが再起動されます。

■ Windows NT の場合

1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。

「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。

2 「コンピュータを再起動する」を選択し、「はい」をクリックします。

本パソコンが再起動されます。

POINT

- 次のように再起動することもできます。
  1. 【Ctrl】キーと【Alt】キーを押しながら【Delete】キーを押します。
  2. 「WindowsNT のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されたら、「シャットダウン」をクリックします。
  3. 「コンピュータのシャットダウン」ダイアログボックスが表示されたら、「シャットダウン後、再起動する」を選択して「OK」をクリックします。本パソコンが再起動されます。

8 バッテリについて

バッテリを充電する

1 AC アダプタを接続します。

AC アダプタを接続すると充電が始まり、状態表示 LCD にバッテリ充電表示（➡）と、そのときのバッテリ残量が表示されます。

2 バッテリ充電表示が消えたことを確認し、AC アダプタを取り外します。

POINT

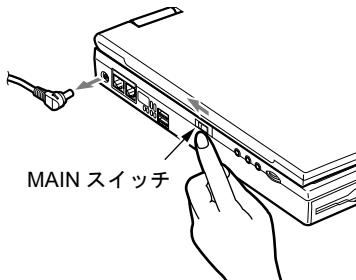
- 充電時間については、「仕様一覧」（▶P.132）をご覧ください。
- 本パソコンご購入時、1ヶ月以上充電していない場合、またはバッテリ残量が少ない場合は、バッテリを充電してからお使いください。
- バッテリの充電は、バッテリ充電表示（➡）が消え、左端のバッテリ残量表示が点滅（ ）から点灯（ ）に変わると完了です。バッテリの充電は十分に時間をかけて行い、満充電状態にしてください。
- バッテリ残量が 90%以上残っている場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- MAINスイッチをOFFにしている場合、充電が完了してしばらくすると状態表示LCDの全表示が消灯します。
- 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリの充電能力は低下します。
- バッテリ運用直後の充電などでは、バッテリの温度が上昇しているため、バッテリの保護機能が働いて充電が行われない場合があります（➡が点滅します）。しばらくして、バッテリの温度が低下すると充電が開始されます。
- 増設バッテリを取り付けた場合、充電は並行して行われます。

バッテリで運用する

ここでは、本パソコンをバッテリで使用する場合について説明します。

1 **AC アダプタを取り外し、MAIN スイッチを ON にします。**

MAIN スイッチを矢印の方向（｜側）へスライドさせます。

⏻ が点灯します。

POINT

- MAIN スイッチが ON のときは、SUS/RES スイッチを押してください。
- 周囲の温度が低いと、バッテリ稼動時間は短くなります。
- バッテリ稼動時間については、「仕様一覧」（••▶P.132）をご覧ください。
- バッテリを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリ稼動時間が短くなります。稼動時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリに交換してください。
- 増設バッテリを取り付けた場合、放電は並行して行われます。

バッテリ残量を確認する

バッテリの残量は、電源が入っているときや充電中に、状態表示 LCD のバッテリ残量表示で確認できます。

■ バッテリの残量表示

約 100%〜約 76%のバッテリ残量を示します。

約 75%〜約 51%のバッテリ残量を示します。

約 50%〜約 26%のバッテリ残量を示します。

約 25%〜約 13%のバッテリ残量を示します（充電中は、0%〜約 25%のバッテリ残量を示します）。

LOW バッテリ状態（約 12%以下のバッテリ残量）を示します。▮ が点滅します。Windows NT の場合は、警告音が鳴ります。

バッテリ切れ状態（0%のバッテリ残量）を示します。

POINT

- バッテリ残量表示（ ）は、バッテリ（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により、実際のバッテリ残量とは異なる表示をする場合があります。
- バッテリ残量が 90%以上残っている場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- バッテリ装着表示（ ）の「1」は、内蔵バッテリを示します。

■ バッテリの異常表示

バッテリが正しく充電できないことを示します。

POINT

- が点滅している場合は、パソコン本体の電源を切ってからバッテリの取り付けをやり直してください。それでも点滅している場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。
「内蔵バッテリパックを交換する」（••▶P.47）

LOW バッテリ状態

ここでは、本パソコンのバッテリが LOW バッテリ状態になった場合の表示と、その対処方法を説明します。

■ LOW バッテリ状態の表示

状態表示 LCD のバッテリ残量表示が点滅します（ ）。

POINT

- Windows NT の場合は、LOW バッテリ状態のときに警告音が鳴ります。ただし、音量ボリュームを小さくしていると、警告音が聞こえない場合があります。
- スピーカーを OFF にしていると、警告音が聞こえません。
【Fn】キーを押しながら【F3】キーを押すと、スピーカーの ON と OFF が切り替わります。ピーと音がした場合は ON、音がしない場合は OFF になります。

■ LOW バッテリ状態の対処

1 AC アダプタを接続します。

AC アダプタを接続するとバッテリが充電されます。

POINT

- LOW バッテリ状態のまま使用し続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかに AC アダプタを接続してください。また、AC アダプタがない場合は、作成中のデータを保存し、動作中のアプリケーションを終了後、本パソコンの電源を切ってください。
- ハードディスクへの読み書きは大量の電力を使います。LOW バッテリ状態で、ハードディスクへデータを保存する場合は、AC アダプタを接続してください。
- LOW バッテリ状態のまま放置すると、自動的にサスペンドします。ただし、ハードディスクなどへデータの読み書きを行っている場合は、その処理が終了するまでサスペンドしません。
- Windows Me、Windows 98 または Windows 2000 では、バッテリ残量が約 3% になったら、自動的にサスペンドするように設定されています。「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスまたは「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスの「アラーム」タブでは「バッテリ消耗の警告」または「バッテリ切れアラーム」の次の項目の設定を変更しないでください。
  ・「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」
  ・「アラームの動作」をクリックして表示される「バッテリ消耗の警告」または「バッテリ切れのアラームの動作」ダイアログボックスの次の項目
    -「電源レベル」の「アラーム後のコンピュータの動作」
    -「プログラムが応答しない場合でも、スタンバイまたはシャットダウンする」
  これらの項目をクリックしてチェックにした状態で使用すると、バッテリが切れた時点で電源が切断されるため、作成中のデータが保存されません。また、パソコン本体が故障する原因となります。

取り扱い上の注意

警告

- バッテリは、大変デリケートな製品です。取り付け／取り外しを行う場合は、落下させるなどして、強い衝撃を与えないでください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリは、使用しないでください。
  感電や破裂の原因となります。

- **放電について**
  - ・バッテリは、充電後にお使いにならなくても、少しずつ自然放電していくので、使う直前に充電することをお勧めします。
  - ・長期間（約 1ヶ月以上）本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリの寿命が短くなります。
- **寿命について**
  - ・パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリは消耗し劣化します。月に一度はパソコン本体をバッテリで運用し、バッテリの状態を確認してください。
  - ・バッテリは消耗品なので、長期間使用すると充電能力が低下します。
  - ・バッテリの稼動時間が極端に短くなってきたらバッテリの寿命です。
- **廃棄について**
  バッテリを廃棄する場合は、バッテリがショートしないようバッテリ端子をテープなどで絶縁し、地方自治体の条例または規則に従ってください。
- **バッテリ稼動時間を長くするには**
  省電力機能を利用します（▶『ソフトウェアガイド』参照）。
- **バッテリ稼動時間が短くなる場合について**
  - ・バッテリ稼動時間は環境温度に影響され、低温時はバッテリ稼動時間が短くなる場合があります。
  - ・バッテリは、長期間使用していると充電容量が低下し、充電能力が落ちてきます。その場合は新しいバッテリと交換してください。
- **次のような場合は AC アダプタを使用してください**
  - ・ハードディスクや CD、スーパーディスクなどを頻繁に使用するとき
  - ・LAN やモデムを頻繁に使用するとき
  - ・本パソコンをご購入時の状態に戻すとき

内蔵バッテリパックを交換する

内蔵バッテリパックの交換は、プログラムやデータをハードディスクなどに保存してから行います。ここでは、内蔵バッテリパックの交換について説明します。

⚠警告

感電

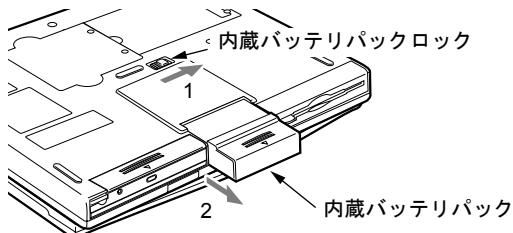
- バッテリパックの交換を行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。また、パソコン本体やバッテリパックのコネクタに触れないでください。
感電や故障の原因となります。

POINT

- 新しい内蔵バッテリパックは、次の製品をお求めください。
商品名：Li-ion バッテリパック FM-31（標準）
商品番号：0643950
商品名：Li-ion バッテリパック FM-32（大容量）
商品番号：0643960
（富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：03-3342-5375）
- 増設バッテリの取り付け／取り外しは、マルチベイユニットの交換（▶P.62）をご覧ください。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（▶P.35）。

2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

3 内蔵バッテリパックを取り外します。
内蔵バッテリパックロックをスライドさせながら（1）、バッテリパックを取り外します（2）。

4 新しい内蔵バッテリパックをスライドさせながら取り付けます。

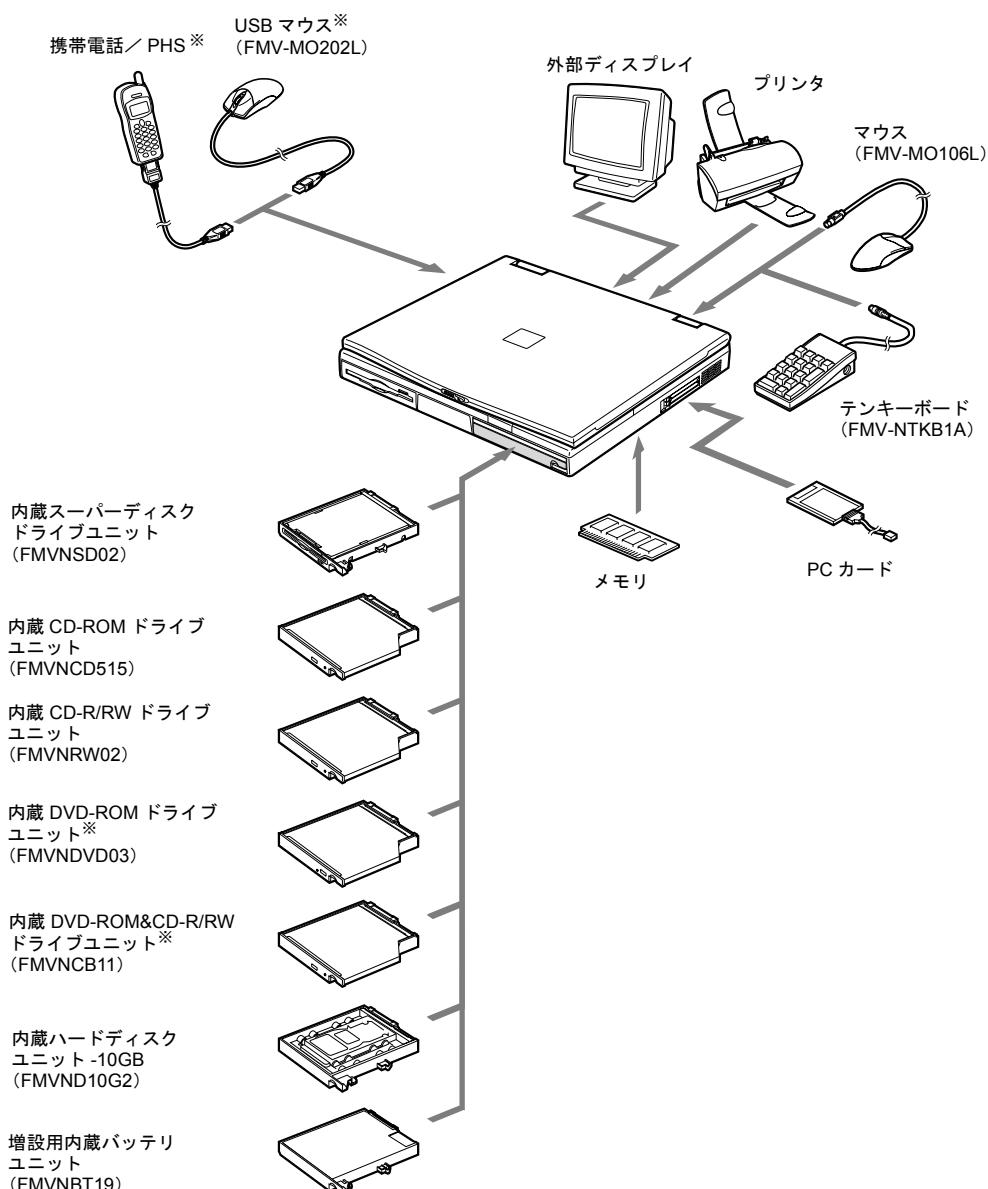
第 2 章

ハードウェアについて

本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）機器について、基本的な取り扱いかたなどを説明しています。

2

1 周辺機器を取り付ける前に

使用できる周辺機器

※　Windows NT ではサポートしていません。

取り扱い上の注意

ここでは周辺機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

- **周辺機器によっては設定作業が必要です**
  パソコンの周辺機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続したあとで設定作業を行う必要があります。たとえば、プリンタや PC カードを使うには、取り付けたあとに「ドライバのインストール」という作業が必要です。また、メモリなどのように、設定作業がいらない機器もあります。周辺機器の接続は、本書をよくご覧になり、正しく行ってください。
- **周辺機器のマニュアルもご覧ください**
  本書で説明している周辺機器の取り付け方法は一例です。本書とあわせて周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。
- **純正品をお使いください**
  弊社純正のオプション機器については、「システム構成図」をご覧ください。
  他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。
- **ACPI に対応した周辺機器をお使いください**
  Windows Me、Windows 98 および Windows 2000 では ACPI モードに設定されています。ACPI モードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。
  また、本パソコンでは、低レベルのスタンバイ（ACPI S1）をサポートしていません。
  お使いになる周辺機器が低レベルのスタンバイのみサポートしている場合、本パソコンをスタンバイや休止状態にしないでください。
- **取り付け／取り外し時の注意**
  PS/2 規格のマウス以外の周辺機器の取り付けは、OS のセットアップ終了後に行ってください。OS のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。OS のセットアップについては、『ソフトウェアガイド』をご覧ください。

重 要

- **コネクタに周辺機器を取り付ける場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。**
- **複数の周辺機器を取り付ける場合は、１つずつ取り付けて設定を行ってください。**

2 PC カードについて

取り扱い上の注意

⚠注意

故 障

● PC カードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留った静電気により破壊される場合があります。PC カードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

故障を防ぐため、PC カードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 重い物をのせないでください。
- コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- 保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

POINT

- 代表的な PC カードには次のようなものがあります。
  - ・SCSI（スカジー）カード
    SCSI 規格対応のハードディスクや MO（光磁気ディスク）ドライブなどの機器を接続するときに必要な PC カードです。
  - ・LAN（ラン）カード
    複数のパソコンどうしをケーブルで接続して、データやプリンタなどを共有するときに必要な PC カードです。
  - ・デジタル携帯電話接続カード／ PHS 接続カード
    デジタル携帯電話や PHS を使って、インターネットやパソコン通信をするときに必要な PC カードです。
- 通信系の PC カードの中には、2 枚同時には使用できないものがあります。PC カードに添付のマニュアルで確認してください。また、LAN 搭載モデルでは LAN カードが使えない場合があります。
- 本パソコンでは、内蔵モデムと PC カードモデムの同時使用はサポートしていません。
- 本パソコンでは、3.3V または 5V を使用する PC カードのみサポートしています。12V を使用する PC カードはサポートしていません。

PC カードをセットする

ここでは、PC カードのセットについて説明します。

⚠ 注意

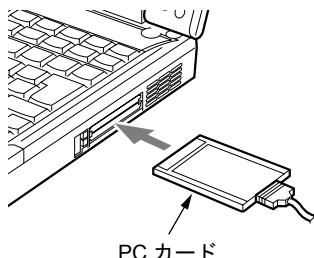
- PC カードをセットするときは、PC カードスロットに指を入れないでください。けがの原因となることがあります。

POINT

- PC カードによっては、お使いの OS に関わらず、セットするときに電源を切る必要のあるものや、デバイスドライバのインストールが必要なものがあります。PC カードのマニュアルで確認してください。
- Windows 2000およびWindows NTの場合、OSの画面で表示されるPCカードのスロット番号と、状態表示 LCD に表示される PC カードのスロット番号は異なります。
- Windows NT モデルではパソコン本体の電源を切ってから PC カードをセットしてください。ただし、Card Executive を使用している場合は、パソコン本体の電源を切らずに PC カードをセットすることができます（••▶『ソフトウェアガイド』参照）。

1 Windows NT の場合は、パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（••▶P.39）。

2 PC カードをセットします。

PC カードの製品名を上にして PC カードスロットに差し込みます。

3 Windows NT の場合は、AC アダプタを取り付け、パソコン本体の電源を入れます（••▶ P.34）。

4 初めてセットした PC カードの場合は、必要に応じてドライバをインストールします。

PC カードによっては、ドライバのインストールが必要なものがあります。PC カードのマニュアルをご覧になり、ドライバをインストールしてください。

POINT

- PC カードとコードを接続しているコネクタ部分に物をのせたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

PC カードを取り出す

ここでは、各 OS での PC カードの取り出しかたについて説明します。

POINT

- コード付きのPCカードを取り出す場合、PCカードのコードを引っ張らないでください。破損の原因となります。
- PC カードを取り出す場合は、次の手順で行ってください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。
- PC カードによっては、取り出すときに電源を切る必要のあるものがあります。PC カードのマニュアルで確認してください。

■ Windows Me の場合

⚠ 注意

- PC カードの使用終了直後は、PC カードが高温になっている場合があります。PC カードを取り出すときは、手順 3 のあと、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。

- PC カードを取り出すときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

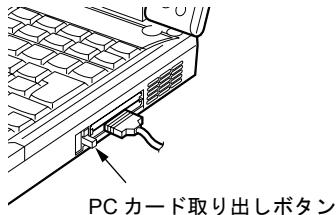
1 タスクバーの「ハードウェアの取り外し」アイコンをクリックします。

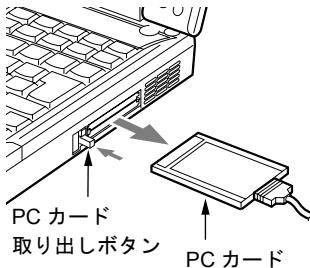
2 「XXXXXX の停止」をクリックします。

XXXXXX には、お使いの PC カードの名称が表示されます。

3 「OK」をクリックします。

4 PC カード取り出しボタンを押します。

PC カード取り出しボタンを軽く一回押すと、ボタンが少し飛び出ます。

5 PC カードを取り出します。

飛び出した PC カード取り出しボタンを押し、PC カードを取り出します。

■ Windows 98 の場合

⚠ 注意

● PC カードの使用終了直後は、PC カードが高温になっている場合があります。PC カードを取り出すときは、手順 3 のあと、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。

● PC カードを取り出すときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

1 タスクバーの「PC カード」アイコンをクリックします。

POINT

▶ タスクバーの「PC カード」アイコンをダブルクリックしたり、コントロールパネルの「PC カード」アイコンをクリックして表示される「PC カード（PCMCIA）のプロパティ」ダイアログボックスで、「停止」をクリックして PC カードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。

2 「XXXXXXXX の中止」をクリックします。

XXXXXXXX には、お使いの PC カードの名称が表示されます。

PC カードの動作が停止し、次の画面が表示されます。

POINT

▶ PC カードによっては、「このデバイスは取りはずせません」というメッセージが表示されることがあります。この場合は、パソコン本体の電源を切ってから手順4へ進んでください。

3 「OK」をクリックします。

4 PC カードを取り出します。

Windows Me の場合の手順 4~5 を参照し（••▶P.54）、PC カードを取り出します。

■ Windows 2000 の場合

⚠ 注意

高温
- PC カードの使用終了直後は、PC カードが高温になっている場合があります。PC カードを取り出すときは、手順 3 のあと、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。

けが
- PC カードを取り出すときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

1 タスクバーの「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンをクリックします。

2 「XXXXXX を停止します」をクリックします。
XXXXX には、お使いの PC カードの名称が表示されます。

3 「OK」をクリックします。

4 PC カードを取り出します。
Windows Me の場合の手順 4~5 を参照し（▶P.54）、PC カードを取り出します。

■ Windows NT の場合

⚠ 注意

高温
- PC カードの使用終了直後は、PC カードが高温になっている場合があります。PC カードを取り出すときは、手順 1 のあと、しばらく待ってから取り出してください。
火傷の原因となることがあります。

けが
- PC カードを取り出すときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

POINT

- Windows NT モデルで Card Executive を使用している場合は、パソコン本体の電源を切らずに PC カードを取り出すことができます（▶『ソフトウェアガイド』参照）。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（▶P.39）。

2 PC カードを取り出します。
Windows Me の場合の手順 4~5 を参照し（▶P.54）、PC カードを取り出します。

3　メモリについて

メモリを取り付ける／取り外す

ここでは、本パソコンに搭載されているメモリの取り付け／取り外しについて説明します。

⚠警告

- メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
  感電の原因となります。

- 取り外したカバー、キャップ、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かない所に置くように注意してください。
  万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

⚠注意

故 障

- メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、カバー開閉時にファン（特に羽根）には触れないでください。またカバーを閉じる際は、ケーブルをはさまないでください。故障する原因となることがあります。

故 障

- メモリの取り付け／取り外しを行う場合は､端子やICなどに触れないようメモリのふちを持ってください。また、パソコン本体内部の部品や端子などにも触れないでください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。

故 障

- メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留った静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

故 障

- メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってください。Windows Me、Windows 98 または Windows 2000 のスタンバイや休止状態、Windows NT のサスペンドや Save To Disk の状態で行うと、データが消失したり、パソコン本体やメモリが故障する原因となることがあります。

重 要

- 故障を防ぐため、メモリの取り付け／取り外しを行うときは、次の点を注意してください。
  ・カバーを強く引っ張らないでください。
  ・衝撃を与えないでください。
  ・操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。
- 本パソコンのネジを取り外すときは、ネジのサイズ（M2.5）に合ったプラスのドライバー1 番をお使いください。他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあります。

POINT

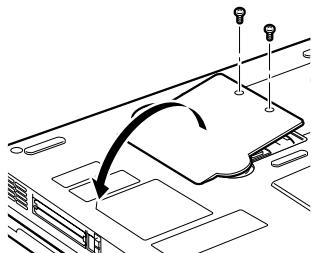
- メモリを取り付け、メモリの容量を確認するには、BIOS セットアップの「情報」メニューの「メモリスロット」の項目を見ます（▶P.107）。「64MB SDRAM」などと取り付けたメモリの容量が表示されます。取り付けが正しいにもかかわらず本パソコンが起動しない場合は、メモリが故障または不良です。富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口またはご購入元にご連絡ください。
- 取り外したネジなどをパソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリを 512MB などに増やす場合は、あらかじめ取り付けられているメモリを取り外して交換する必要があります。

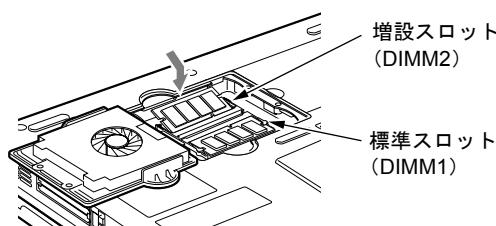
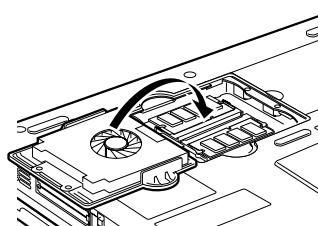
■ メモリを取り付ける

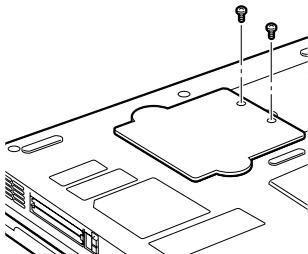
1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（▶P.35）。

2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

3 カバーを開きます。

パソコン本体下面のネジを外し、カバーを開きます。

4 メモリを取り付けます。

メモリの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかり差し込み、パチンと音がするまで下に倒します。

5 カバーを閉じます。

6 カバーを固定します。

手順 3 で外したネジを取り付けます。

重 要

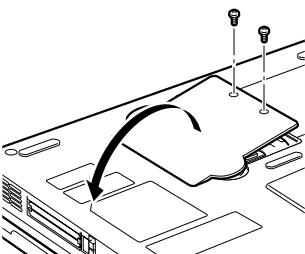
- メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、画面に何も表示されないことがあります。その場合は MAIN スイッチを切り、メモリを取り付け直してください。

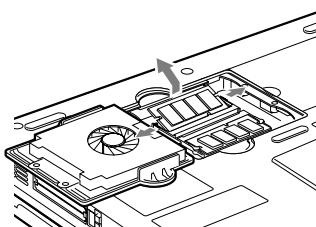
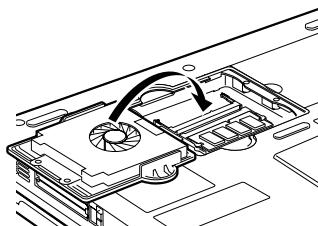
■ メモリを取り外す

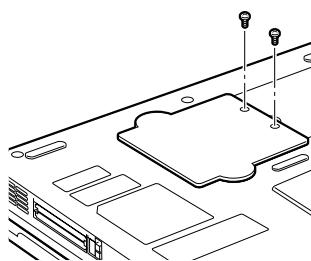
1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（▶P.35）。

2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

3 カバーを開きます。

パソコン本体下面のネジを外し、カバーを開きます。

4 メモリを取り外します。

メモリを押さえている両側のツメを左右に開き、スロットから取り外します。

5 カバーを閉じます。

6 カバーを固定します。

手順 3 で外したネジを取り付けます。

4 マルチベイユニットについて

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、マルチベイユニットをお使いになる場合は、次の点に注意してください。

- 内蔵ハードディスクユニット、内蔵 CD-ROM ドライブユニット、内蔵 DVD-ROM ドライブユニット、内蔵 CD-R/RW ドライブユニット、内蔵スーパーディスクドライブユニット、内蔵 DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニットは、ディスクが高速に回転する非常にデリケートな装置です。ディスクにアクセスしている状態で、パソコン本体を持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。ユニットが破損したりデータが壊れるおそれがあります。
- 内蔵スーパーディスクドライブユニットの取り扱いかたによっては、ディスク内のデータが壊れるおそれがあります。重要なデータは必ずバックアップをとってください。
- 極端に高温、低温の場所、温度変化の激しい場所での保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないようにしてください。
- 衝撃や振動の加わる場所での保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所での使用は避けてください。
- 内部に液体や金属など異物が入った状態で使用しないでください。もし、何か異物が入ったときは、ご購入元または富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口へご連絡ください。
- 汚れは、柔らかい布でから拭きするか、柔らかい布に水または水で薄めた中性洗剤を含ませて軽く拭いてください。ベンジンやシンナーなど揮発性のものは避けてください。
- 分解したり、解体したりしないでください。
- 磁石や強い磁界を発生する装置の近くでの使用や保管は避けてください。

マルチベイユニットを交換する

ここでは、マルチベイユニットの交換方法について説明します。

重 要

- 本パソコンをお使いになるときは、必ずマルチベイにユニットを取り付けてください。何も取り付けない状態でお使いになると、故障の原因となります。
- 増設用内蔵バッテリユニットを取り外す前に、内蔵バッテリの残量が十分にあることを確認してください。内蔵バッテリの残量が十分でない場合は、AC アダプタを取り付けてから行ってください。

■ Windows 2000 の場合

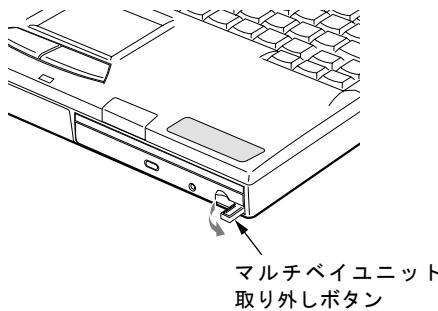
POINT

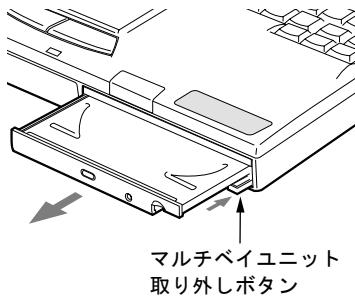
- タスクバーに「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンが表示される場合は、手順 1 から行ってください。
- タスクバーに「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンが表示されない場合は、手順 4 から行ってください。

1 タスクバーの「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンをクリックします。

2 「XXXXXX を停止します」をクリックします。

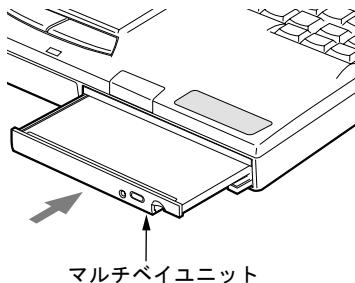
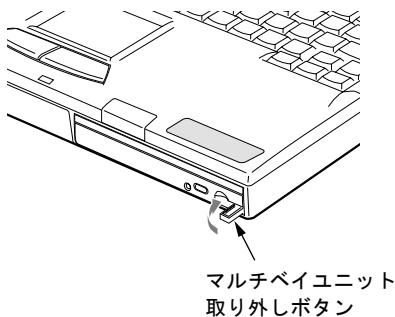
3 「OK」をクリックします。

4 マルチベイユニット取り外しボタンを起こします。

5 マルチベイユニットを取り外します。

マルチベイユニット取り外しボタンを押し、ユニットを取り外します。

POINT

- ユニットの取り外し直後は「マイコンピュータ」ウィンドウなどからドライブの表示が消えることがあります。しばらくすると再表示され、使用することができます。

6 新しいマルチベイユニットを取り付けます。

ユニットのコネクタを奥にして、しっかり押し込みます。

7 マルチベイユニット取り外しボタンを倒します。

■ Windows Me、Windows 98、Windows NT の場合

⚠ 警告

- マルチベイユニットを交換する場合は、パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。感電や故障の原因となります。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（▶P.35）。

2 マルチベイユニットを取り外します。

Windows 2000 の場合の手順 4 〜 5 を参照しユニットを取り外します（▶P.62）。

3 新しいマルチベイユニットを取り付けます。

Windows 2000 の場合の手順 6 〜 7 を参照しユニットを取り付けます（▶P.63）。

POINT

- Windows Me または Windows 98 モデルの場合は、添付の Softex BayManager をインストールすると、電源が入っているときでもマルチベイユニットを交換することができます（▶『Softex BayManager ユーザーズマニュアル』参照）。
- Windows NT モデルの場合は、添付の Portables Suite をインストールすると、電源が入っているときでもマルチベイユニットを交換することができます（▶『ソフトウェアガイド』参照）。

5 CD について

取り扱い上の注意

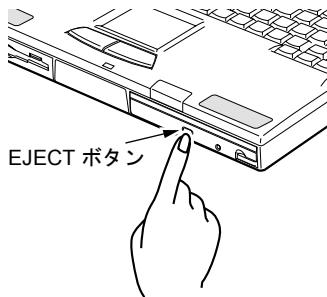
故障を防ぐため、CD を使用するときは、次の点に注意してください。

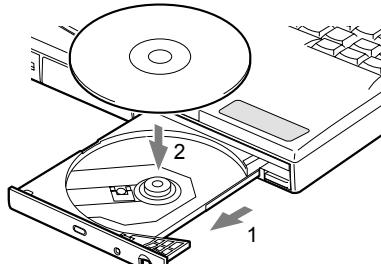
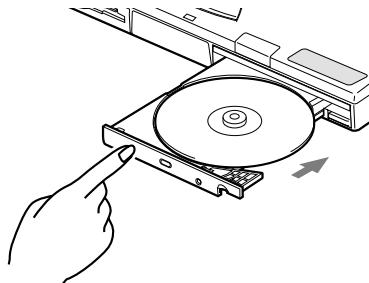
- レーベル面（印刷側）にボールペンや鉛筆などで字を書かないでください。また、ラベルなどは貼らないでください。
- データ面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- 汚れたり、水滴がついたりした場合は、乾いた柔らかい布で中央から外側にむかって拭いてください（クリーナーなどは使用しないでください）。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。

CD をセットする／取り出す

ここでは、CD のセット／取り出しについて説明します。

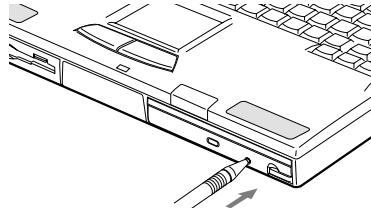
1 EJECT ボタンを押します。

トレーが少し飛び出します。

2 トレーを引き出し（1）、CD をセットします（2）。

トレーを手で支えながら、CD のレーベル面を上にして、トレー中央の突起にパチンと音がするようはめ込みます。

3　トレーを静かに押し込みます。

重 要

- CDをセットする場合は、トレー中央の突起にCDの穴を合わせ、パチンと音がするようしっかりとはめ込んでください。きちんとはめ込まないと、CD がドライブ内部で外れて、トレーやドライブ内部、および CD を破損する原因となることがあります。

POINT

- 円形以外（星型やカード型などの変形）の CD はお使いにならないでください。正常に読み出しや書き込みが行えなかったり、故障の原因となる場合があります。
- CD はデータの読み込みの際、高速で回転するため、使用時に振動や風切音がすることがあります。
- 本パソコンの CD ドライブユニットは、電子ロックのため、パソコン本体が動作状態の場合のみ CD のセット／取り出しが可能です。
- トレーを最後まで押し込めない場合は、カシャッという音がするまでトレーを引き出し、再度押し込んでください。
- パソコン本体の電源が切れた状態では、トレーが閉まらないことがあります。この場合は、再度電源を入れて、トレーを閉めてください。
- CD を取り出す場合も、セットと同じ手順で行います。
- CD ドライブユニットをパソコン本体に取り付けていない場合は、OS の「ボリュームコントロール」または「Volume Control」などの CD の項目でミュートを有効にしてください。
- 何らかの原因で、EJECT ボタンを押してもトレーが出ない場合は、「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックし、「マイコンピュータ」ウィンドウのCD-ROMアイコンを右クリックして「取り出し」をクリックしてください。それでも出ない場合は、CD ドライブユニット前面の EJECT ボタンの横の穴をボールペンの先などでつついて、トレーを引き出してください。

6 フロッピーディスクについて

取り扱い上の注意

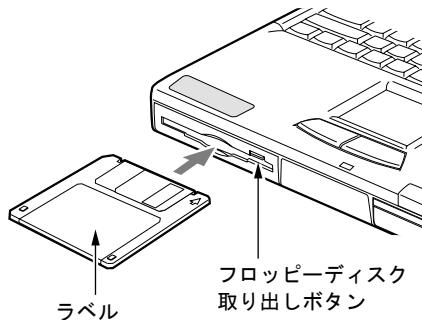
故障を防ぐため、フロッピーディスクを使用するときは、次の点に注意してください。

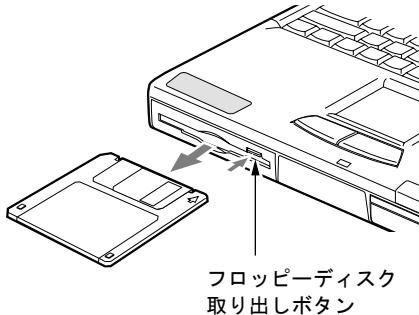
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクにさわらないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- 磁石などの磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください（ドライブにつまる原因になります）。
- 結露や水滴がつかないようにしてください。

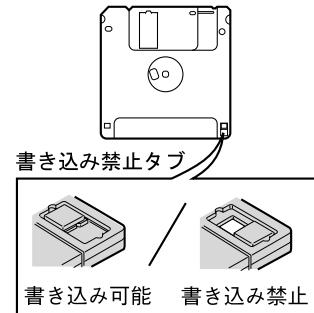
フロッピーディスクをセットする／取り出す

ここではフロッピーディスクのセット／取り出しについて説明します。

■ セットする

ラベルを上向きにして、シャッタのある側から、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出すまで差し込みます。

■ 取り出す

状態表示 LCD の が消えていることを確認して、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。

POINT

- DOS/V フォーマット済みのフロッピーディスクを使用してください。その他のフロッピーディスクを使用すると、動作が保証されません。
- 状態表示 LCD の が表示中にフロッピーディスクを取り出すと、ディスク内のデータが壊れるおそれがあります。
- フロッピーディスクに保存してある情報を消したくないときや、追加して書き込みたくないときは、フロッピーディスクの書き込み禁止タブをスライドさせ、穴があいた状態（書き込み禁止の状態）にします。再び情報を書き込みたいときは、書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態にします。

7 内蔵 FAX モデムについて

接続について

本パソコンは、モデルにより V.90 対応の FAX モデムが内蔵されており、MNP Class 4/5 および ITU-T V.42/V.42bis によるエラーフリーの通信が快適に行えます。また、モデムとしての機能に加え、T.30(G3)FAX の機能を持ち、FAX の送受信を行えます。

⚠ 警告

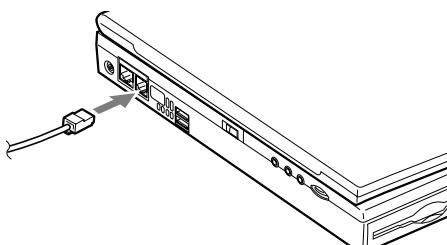
- モジュラーケーブルを接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
  感電の原因となります。

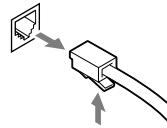
- 近くで雷が起きたときは、パソコン本体の電源を切り、AC アダプタやモジュラーケーブルを取り外してください。
  そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。

⚠ 注意

- モジュラーコネクタに指などを入れないでください。
  感電の原因となることがあります。

- モジュラーケーブルを接続する場合は、必ずモジュラーコネクタに接続してください。
  故障の原因となります。

1. パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（▶P.35）。
2. パソコン本体のモジュラーコネクタと電話回線を、モジュラーケーブルで接続します。

POINT

- 内蔵モデムについて（▶『内蔵モデム取扱説明書』参照）。
- 本パソコンでは、内蔵モデムと PC カードモデムの同時使用はサポートしていません。
- モジュラーコネクタからプラグを取り外すときは、ツメを押さえながら引き抜いてください。破損の原因となります。
- モデムを使用する場合は、消費電力が大きいため、AC アダプタのご使用をお勧めします。
- アプリケーションを起動したままインターネットに長時間接続していると、本パソコンの CPU に高い負荷がかかり、内蔵モデムでの通信が切断される場合があります。このような場合は、ブラウザやメールソフト以外のアプリケーションを終了してから、もう一度インターネットに接続してください。

8　内蔵 LAN について

接続について

本パソコンは、モデルにより LAN デバイスが内蔵されており、100BASE-TX による IEEE802.3u に準拠した高速 LAN システムへ接続することができます。また、従来の 10BASE-T による LAN システムへ接続することも可能です。

⚠警告

感電

- LAN ケーブルを接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。感電の原因となります。

感電

- 近くで雷が起きたときは、パソコン本体の電源を切り、AC アダプタや LAN ケーブルを取り外してください。
そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。

⚠注意

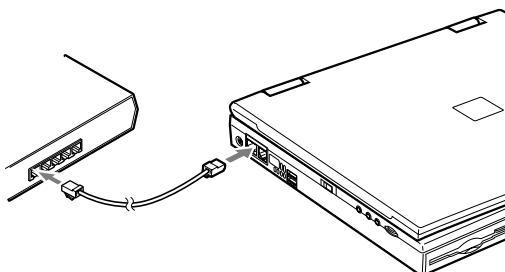
感電

- LAN コネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。

故障

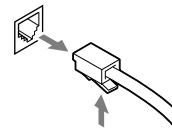
- LAN ケーブルを接続する場合は、必ず LAN コネクタに接続してください。
故障の原因となります。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（··▶P.35）。

2 パソコン本体の LAN コネクタとネットワークを、LAN ケーブルで接続します。

重要

- ネットワークをお使いになるときは、省電力機能が働かないように設定を変更してください（··▶『ソフトウェアガイド』参照）。
省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。また、お使いになるアプリケーションによっては、不具合が発生する場合があります。

POINT

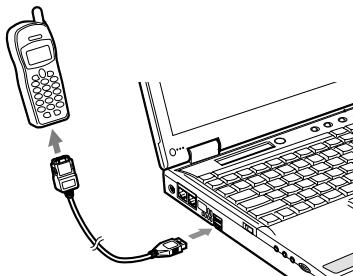
- LAN コネクタからプラグを取り外すときは、ツメを押さえながら引き抜いてください。破損の原因となります。
- LAN を使用する場合は、消費電力が大きいので、AC アダプタのご使用をお勧めします。

9　携帯電話や PHS について

接続について（Windows NT ではサポート外）

本パソコンは、USB コネクタに別売の携帯電話接続ケーブルなどで携帯電話や PHS を接続し、移動体通信を行うことができます。
ここでは、携帯電話の接続について説明します。

注意

- ケーブルは本書および「ドライバーズ CD」内の Windows Me または Windows 98 モデルは「Fjusb」フォルダ、Windows 2000 モデルは「¥W2K¥Cblmdm」フォルダにある readme.txt をよくお読みになり、正しく接続してください。
誤った接続状態で使用すると、パソコン本体および携帯電話や PHS が故障する原因となることがあります。

1　携帯電話または PHS を接続します。
接続ケーブルで、携帯電話や PHS とパソコン本体左側面の USB コネクタを接続します。
このあと、接続ケーブルのドライバをインストールします（『ソフトウェアガイド』参照）。

POINT

- Windows Me または Windows 98 モデルの場合は、「ドライバーズ CD」内の「Fjusb」フォルダにある readme.txt を必ずお読みください。
- Windows 2000 モデルの場合は、「ドライバーズ CD」内の「¥W2K¥Cblmdm」フォルダにある readme.txt を必ずお読みください。
- お使いになれる携帯電話接続ケーブルは以下のとおりです。
  - ・携帯電話接続用 USB ケーブル（FMV-CBL101、FMV-CBL11S）
  - ・PHS 接続用 USB ケーブル（FMV-CBL102、FMV-CBL12S）
  - ・PHS 接続用 USB ケーブル（H" 対応）（FMV-CBL103）
  - ・cdmaOne 接続用 USB ケーブル（FMV-CBL104）

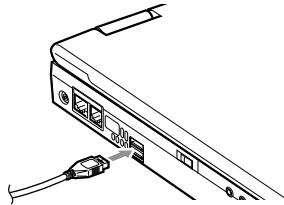
  なお、別売のケーブルにドライバ CD が添付されている場合がありますが、別売のケーブルに添付されている CD は使用しないでください。
- 各コネクタを接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。
- 携帯電話または PHS からケーブルを取り外す場合は、必ずコネクタの両側、または上側のボタンを押しながら取り外してください。破損の原因となります。
- 本パソコンには、デジタル携帯電話接続カード、および PHS 接続カードをセットすることもできます。接続カードについては、接続カードのマニュアルをご覧ください。

10 USB マウスについて

接続について（Windows NT ではサポート外）

本パソコンは、USB コネクタに別売の USB マウス（FMV-MO202L）を接続できます。

1 本パソコンの USB コネクタにマウスを接続します。

コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。

POINT

- USB マウスは、パソコンの電源が入った状態で取り付けおよび取り外しができます。
- USB マウスを接続してもポインティングデバイスは無効になりません。ポインティングデバイスを無効にする場合は、「フラットポイントを無効にするには」（••▶ P.75）をご覧ください。
- Windows 98 の MS-DOS モードでは、USB マウスはお使いになれません。

■ フラットポイントを無効にするには

本パソコンに USB マウスを接続すると、フラットポイントと USB マウスの両方が有効になります。USB マウスを接続したときにフラットポイントを無効にする場合は、次のように設定してください。

1 BIOS セットアップの「内蔵ポインティングデバイス」の項目を「手動」に設定します。

「BIOS セットアップの操作のしかた」（→P.93）

2 Windows が起動したら、【Fn】キーを押しながら【F4】キーを押します。

キーを押すたびに、フラットポイントの有効と無効が切り替わります。
Windows Me モデル、Windows 98 モデルまたは Windows 2000 モデルでは、フラットポイントが有効の場合は「Internal pointing device:Enabled」、フラットポイントが無効の場合は「Internal pointing device:Disabled」と画面に表示されます。

重 要

- フラットポイントを無効にする場合は、必ずマウスを接続してください。

POINT

- 【Fn】キーを押しながら【F4】キーを押してフラットポイントを無効にしても、本パソコンの再起動後およびレジューム後は、フラットポイントが有効になります。フラットポイントを無効にする場合は、もう一度【Fn】キーを押しながら【F4】キーを押して切り替えてください。
- Windows Me、Windows 98 の「電源の管理のプロパティ」、または Windows 2000 の「電源オプションのプロパティ」に「BATTERYAID（2/2）」タブが表示されていない場合は、「Internal pointing device:Enabled」などは画面に表示されません。
- BIOS セットアップの「内蔵ポインティングデバイス」（→P.100）の項目を「常に使用しない」に設定すると、フラットポイントは常に無効になります。

11 ワイヤレスマウスについて

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、ワイヤレスマウスを使用するときは、次の点に注意してください。

- 電池を取り付ける場合は、プラス（＋）とマイナス（－）の向きを確認して、正しく入れてください。
- 消耗した電池と新しい電池を混ぜたり、種類の異なる電池を混ぜて使用しないでください。
- ワイヤレスマウスを長期間使用しない場合は、電池の液漏れなどによるトラブルを防ぐため、電池を取り出してください。万一液漏れしたときは、水に浸した布を固く絞って金具、周囲を清掃し、その後、乾いた布で水分をよく拭き取ってください。
- 電池から漏れた液が体についたときは水でよく洗い流してください。また目や口に入ったときは、よく洗い流した後、直ちに医師の診察を受けてください。
- 電池ボックスの端子をショートさせないでください。
- 電池を水や火の中に入れたり、分解しないでください。
- 電池を充電しないでください。
- 電池に直接ハンダ付けしないでください。
- 極端な温度条件下で保管しないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 電池を廃棄するときは、各自治体の指示に従ってください。

お使いになる前に

本パソコンはモデルによりワイヤレスマウス受光部を搭載しており、ワイヤレスマウスを使用することができます。

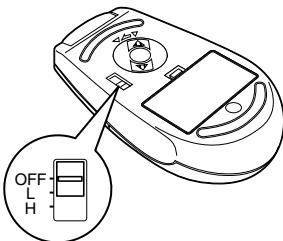
■ 電池の取り付けについて

「電池を交換する」（••▶P.80）をご覧になり、添付の単４アルカリ乾電池２本を取り付けてください。

⚠ 警告

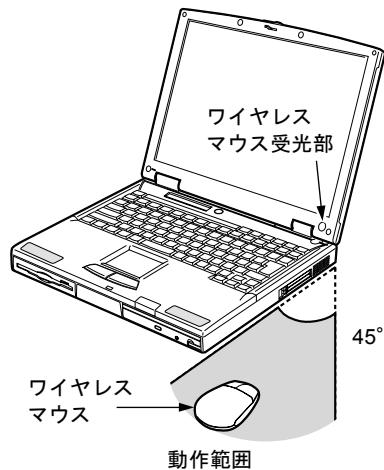
- 指定された電池以外は使用しないでください。
  機器の破損・火災・感電の原因となります。

■ スイッチについて

ワイヤレスマウスの赤外線での送信は、スイッチにより強弱を切り替えることができます。使用環境や用途に合わせて切り替えてください。H はハイパワーモード、L はローパワーモードを指します。また、OFF にすれば電池の消耗を防ぎます。

■ 使用方法について

ワイヤレスマウスは、マウスの操作を赤外線でパソコン本体に送信します。
ワイヤレスマウスを使用する場合は、ワイヤレスマウスをパソコン本体のワイヤレスマウス受光部に向けて操作してください。操作方法は、通常の PS/2 マウスと同様です。
「マウスの使いかた」（••▶P.25）
距離は、ワイヤレスマウス受光部から H で 60cm 以内、L で 40cm 以内でのご使用をお勧めします。

POINT

- ワイヤレスマウスを、パソコン本体の赤外線通信ポートに向けて操作しないでください。赤外線通信ポートが正常に動作しなくなります。
- ワイヤレスマウスのボタンが押されたままになると、電池が短時間で消耗します。ワイヤレスマウスの上に物を載せたり、ひっくり返して放置しないでください。
- パソコン本体の受光部に太陽光線や強い光などを直接当てないでください。誤動作や通信距離が短くなる原因となります。

設定について

■ パソコン本体の設定

BIOS セットアップに、「ワイヤレスマウス（ワイヤレスマウス添付モデルのみ）」（••▶P.100）という項目が設けられています。本パソコンをお買い上げの状態では、本項目は「使用する」に設定されています。ワイヤレスマウスを使用する場合は、本項目を必ず「使用する」に設定してください。

POINT

- 上記の「ワイヤレスマウス」の項目を「使用する」に設定した場合は、パソコン本体の拡張キーボード／マウスコネクタに接続した外付けの PS/2 マウスは使用できません。また、「内蔵ポインティングデバイス」（••▶P.100）の項目を「常に使用する」に設定してください。

■ ワイヤレスマウスの ID 設定

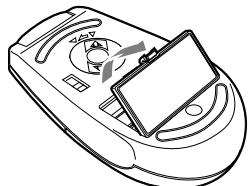
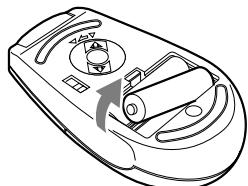
複数のワイヤレスマウスを隣接して使用する場合は、混信を防ぐため、各ワイヤレスマウスに異なる ID を設定します。ID は、底面の電池カバーを開き、ディップスイッチで設定します。

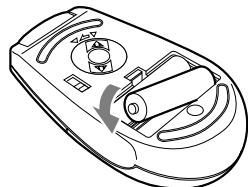
ID	ディップスイッチ		
	1	2	3
0	ON	ON	ON
1	OFF	ON	ON
2	ON	OFF	ON
3	OFF	OFF	ON
4	ON	ON	OFF
5	OFF	ON	OFF
6	ON	OFF	OFF
7	OFF	OFF	OFF

POINT

- ご購入時の ID は「7」に設定されています。
- ID を変更した場合は、パソコン本体の電源を一度切り、再度電源を入れるか、サスペンド／レジューム動作させて、新しい ID を認識させてください。
- パソコン本体の ID の認識は、パソコン本体の電源を入れた後、またはレジューム後に初めて受信した ID になります。

電池を交換する

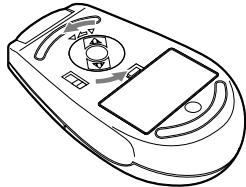
1 電池カバーを取り外します。

2 電池を取り出します。

3 新しい電池を取り付けます。

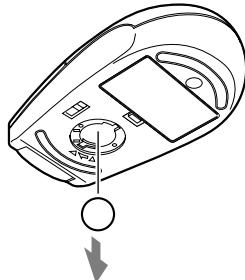
電池のプラス（＋）とマイナス（－）の向きを確認して正しく入れてください。

4 電池カバーを取り付けます。

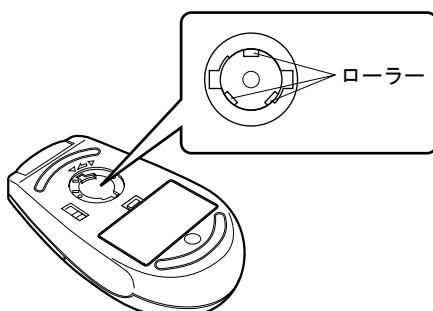
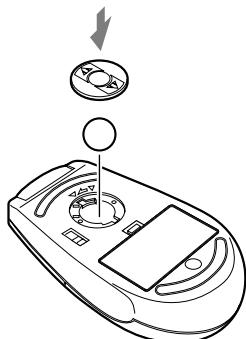
お手入れについて

ワイヤレスマウスのボールやローラーに、ゴミやほこりが付着すると、誤動作の原因となります。以下の要領で、定期的（約1ヶ月に1度）にクリーニングを行ってください。

1 カバーを取り外します。

矢印の方向にカバーを回転させ、取り外します。

2 ボールを取り外します。

マウスをひっくり返してボールを取り出し、水洗いします。その後十分乾燥させます。

3 マウス内部をクリーニングします。

マウス内部やローラー、カバーを乾いた布でよく拭きます。

4 ボールとカバーを取り付けます。

重 要

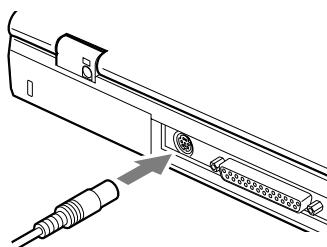
- マウス内部に水分を残さないでください。また、アルコールやベンジンなどの有機溶剤を使用しないでください。故障する原因となることがあります。

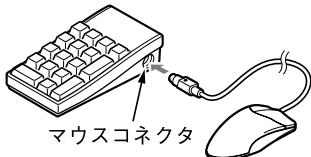
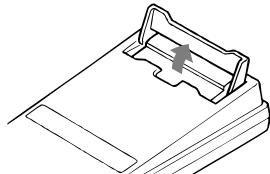
12 テンキーボードについて

接続について

1 パソコン本体の電源を切るか（••▶P.35）、サスペンドさせます。

2 テンキーボードを接続します。

テンキーボードをパソコン本体背面の拡張キーボード／マウスコネクタに接続します。
このとき、コネクタに刻印されている矢印が下側になるようにします。

POINT

- テンキーボードは、パソコン本体がテンキーモードの場合のみ使用できます。
「テンキーモードについて」（••▶P.26）
- テンキーボードのマウスコネクタにマウスを接続することができます。

- テンキーボード下面にあるチルトフットで、傾きを調節できます。

- 拡張キーボード／マウスコネクタには、101 キーボード、OADG キーボード、JIS キーボード、親指シフトキーボードも接続できます。
- 親指シフトキーボードを使うには、弊社製日本語入力システムの OAK V5.0 以降が必要です。お使いになる OS に合わせてお使いください。

13 プリンタについて

POINT

- USB 接続に対応したプリンタの場合、USB コネクタに接続することもできます（P.15）。

接続について

警告

感電

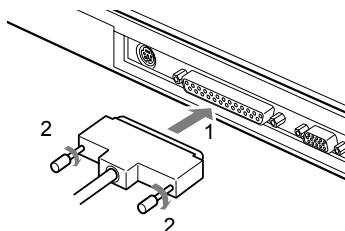
- プリンタの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

注意

故障

- ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。
誤った接続状態で使用すると、パソコン本体およびプリンタが故障する原因となることがあります。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（P.35）。

2 パソコン本体背面のパラレルコネクタに、プリンタケーブルを接続します。
コネクタは、正面から見ると台形になっています。
コネクタの形を互いに合わせてしっかりと差し込み（1）、プリンタケーブルの左右のネジをしめて固定してください（2）。

3 プリンタに、プリンタケーブルおよび電源ケーブルを接続します。
接続方法は、プリンタのマニュアルをご覧ください。
プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。

4 プリンタの電源ケーブルのプラグをコンセントに差し込み、電源を入れます。

5 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。

6 初めて接続したプリンタの場合は、ドライバをインストールします。

プリンタのマニュアルをご覧になり、ドライバのインストールを行ってください。

POINT

- プリンタの接続にはプリンタケーブルが必要です。プリンタケーブルは、プリンタに添付されていないことがあります。また、添付されているものもコネクタの形状により接続できない場合もあります。そのような場合は、接続できるプリンタケーブルを別にお買い求めください。
- プリンタの接続方法は、プリンタによって異なります。詳しくは、プリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

14 外部ディスプレイについて

接続について

本パソコンには、CRT ディスプレイなどの外部ディスプレイを接続することができます。
ここでは、パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタに、CRT ディスプレイを接続する場合について説明します。

⚠警告

感電

- 外部ディスプレイの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

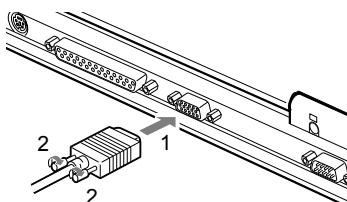
⚠注意

故障

- ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。
誤った接続状態で使用すると、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となることがあります。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（▶ P.35）。

2 パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。

コネクタは正面から見ると台形になっています。
コネクタの形を互いに合わせてしっかり差し込み（1）、ディスプレイケーブルの左右のネジで固定します（2）。

3 CRT ディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。

接続方法は、CRT ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

4 CRT ディスプレイの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。

5 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。

POINT

- 外部ディスプレイを接続後パソコン本体の電源を入れると、次のようになることがあります。
  ・パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示される。
  ・「新しいハードウェアの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示される。
  この場合は、画面の指示に従って外部ディスプレイのドライバをインストールしてください。

6 画面の表示を切り替えます。

【Fn】キーを押しながら、【F10】キーを押すと、LCD → CRT →同時表示→ LCD…の順で表示を切り替えることができます。また、OS の「画面のプロパティ」でも切り替えることができます（▶『ソフトウェアガイド』参照）。

15 セキュリティについて

重 要

- セキュリティ機能は完全な本人認識・照合を保障するものではありません。当社ではセキュリティ機能を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

セキュリティボタンについて

お使いのモデルにより、セキュリティボタンを搭載しています。
パソコン本体の起動時やレジューム時に、添付の「セキュリティボタン」で設定したパスワードを入力することにより、本パソコンが使用できるようになります。パソコン本体の電源を入れたときやレジューム時にセキュリティ表示が点灯したらパスワードを入力してください。

POINT

- セキュリティボタンについては、『セキュリティボタン取扱説明書』をご覧ください。

スマートカードについて

お使いのモデルにより、スマートカードが使用できます。
BIOS の起動時、Windows の起動時やアプリケーションの起動時に、パスワードなどのセキュリティ情報を登録したスマートカードをセットすることにより、本パソコンが使用できるようになります。

POINT

- スマートカードについては、『スマートカードホルダー取扱説明書』をご覧ください。
- スマートカードホルダーは、PC カードスロットにセットします（▶P.53）。

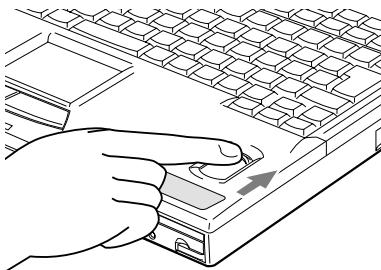
指紋センサーについて（Windows NT ではサポート外）

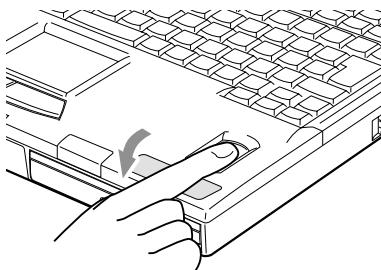
お使いのモデルにより、指紋センサーを搭載しています。
Windows の起動時やレジューム時に、指紋を登録した指を指紋センサーに載せることにより、本パソコンが使用できるようになります。
ここでは、指紋センサーに指を載せる方法を説明します。

POINT

- 指紋の登録方法や認証方法などは、『指紋センサー取扱説明書』をご覧ください。

1　指紋センサーのシャッターを開きます。

指の先で静かにシャッターを開きます。

2　指紋センサーの上に指を載せます。

シャッターが開いたら指を真下におろし、指のはら（指紋の中心部）をセンサーにつけます。

3　指紋センサーのシャッターを閉じます。

シャッターがしっかり閉じていることを確認してください。

第 3 章

BIOS セットアップ

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法についても説明しています。なお、BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、本パソコンの環境を設定するためのプログラムです。本パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけが本パソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- 省電力モード（電源を入れた状態で本パソコンを一定時間使用しなかったときに、消費電力を減らして待機している状態）を設定するとき
- 起動時の自己診断テスト（POST）で BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

重 要

- BIOS セットアップの設定項目の詳細については、BIOS セットアップ画面（••▶ P.93）の「項目ヘルプ」をご覧ください。
- OS により、設定する値が異なる項目があります（••▶『ソフトウェアガイド』参照）。

POINT

- BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記憶されます。この CMOS RAM は、バックアップ用バッテリによって記憶した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、パソコン本体の起動時に「システム CMOS のチェックサムが正しくありません。標準設定値が設定されました。」というメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられますので、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口にご連絡ください。
- 起動時の自己診断テスト中は不用意に電源を切らないでください。
  本パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。
- 起動時の自己診断テスト（POST（ポスト））
  本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」（POST : Power On Self Test）といいます。

2　BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードで行います。

1　作業を終了してデータを保存します。

2　状態表示 LCD に や が点灯していないことを確認し、本パソコンを再起動します。

- Windows Me または Windows 98 の場合は、「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックし、「再起動」または「再起動する」を選択し、「OK」をクリックします。
- Windows 2000 の場合は、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「再起動」を選択して「OK」をクリックします。
- Windows NT の場合は、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「コンピュータを再起動する」を選択して、「はい」をクリックします。

3　「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「<ESC> キー：自己診断画面 /<F12> キー：起動メニュー /<F2> キー：BIOS セットアップ」と表示されている間に、【F2】キーを押してください。

BIOS セットアップ画面が表示されます。

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。

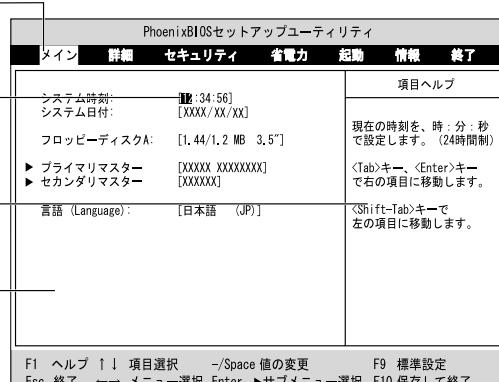
```
                 PhoenixBIOSセットアップユーティリティ
  メイン   詳細   セキュリティ   省電力   起動   情報   終了

                                                  項目ヘルプ
    システム時刻:          [12:34:56]
    システム日付:          [XXXX/XX/XX]           現在の時刻を、時：分：秒
                                                  で設定します。(24時間制)
    フロッピーディスクA:   [1.44/1.2 MB  3.5″]
                                                  <Tab>キー、<Enter>キー
  ▶ プライマリマスター     [XXXXX XXXXXXXX]       で右の項目に移動します。
  ▶ セカンダリマスター     [XXXXXX]
                                                  <Shift-Tab>キーで
    言語 (Language):       [日本語  (JP)]         左の項目に移動します。

 F1  ヘルプ ↑↓ 項目選択    -/Space 値の変更          F9  標準設定
 Esc 終了   ←→ メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了
```

メニューバー
メニューの名称が表示されます。

カーソル
設定する項目に合わせます。

項目ヘルプ
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

設定フィールド
各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。

キー一覧
設定時に使うキーの一覧です。

POINT

- BIOS セットアップの画面ではなく OS が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順 2 からやり直してください。
- 手順 3 で【F12】キーを押すと、「起動メニュー」が表示され、起動するドライブを選択することができます。また、〈BIOS セットアップを起動〉を選択すると、BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。

起動メニュー
1．　+フロッピーディスクドライブ 2．　+ハードディスクドライブ 3．　ATAPI　CD-ROMドライブ 〈BIOSセットアップを起動〉

設定を変更する

ここでは一般的な操作方法を説明します。

1 【←】キーまたは【→】キーでカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。

選択したメニュー画面が表示されます。

2 【↓】キーまたは【↑】キーでカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。

3 【Space】キーまたは【－】キーを押して、選択している項目の設定値を変更します。

続けて他の設定項目を変更する場合は、手順 1 ～ 3 を繰り返してください。

4 設定を保存して終了します。

「BIOS セットアップを終了する」（••▶ P.96）

重 要

- BIOS セットアップの設定は正確に行ってください。
  設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。
  このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを起動し直してください。

POINT

- 設定内容を変更前の値に戻す方法は、「終了メニュー」（••▶ P.108）をご覧ください。
- 設定内容をご購入時の設定値に戻す方法は、「ご購入時の設定に戻す」（••▶ P.97）をご覧ください。
- 項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。
  項目名にカーソルを移動して【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは【Esc】キーを押します。

各キーの役割

設定時に使用するキーの役割は、以下のとおりです。

キー	役割
【↑】キー、【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【Page Up】キー	複数ページにわたるメニュー画面で、前ページに移動します。
【Page Down】キー	複数ページにわたるメニュー画面で、次ページに移動します。
【Home】キー	メニュー内の最初の項目にカーソルを移動します。
【End】キー	メニュー内の最後の項目にカーソルを移動します。
【F5】キー、【−】キー	各項目の設定を 1 つ前の設定値に変更します。
【F6】キー、【Space】キー	各項目の設定を次の設定値に変更します。
【←】キー、【→】キー	メニューを切り替えます。
【Enter】キー	▶印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。 設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
【F9】キー	標準設定値を読み込みます。
【F10】キー	現在の設定値を保存して、BIOSセットアップを終了します。
【Esc】キー、 【Alt】キー＋【X】キー	「終了」メニューを表示します。また、サブメニュー画面でこれらのキーを押すと、1 つ上のメニュー画面に戻ります。
【F1】キー、 【Alt】キー＋【H】キー	一般ヘルプ画面を表示します。同じキーを再度押すか、【Esc】キーを押せば閉じます。

POINT

- ここでいう【−】キーは [−ほ] のことです。
- 「＋」でつながれたキーは、前半のキーを押しながら後半のキーを押す動作を表しています。たとえば【Alt】キー＋【X】キーは、【Alt】キーを押しながら【X】キーを押す動作を表しています。

BIOS セットアップを終了する

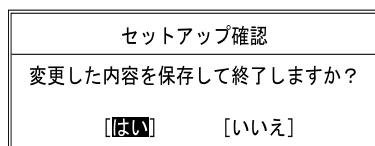
変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。以下の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 【Esc】キーを押します。

「終了」メニューが表示されます。

2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「変更を保存して終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。

次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認
変更した内容を保存して終了しますか？ ［はい］　　［いいえ］

3 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

すべての設定値が保存されたあと、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

POINT

- サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを 2 ～ 3 回押してください。
- 設定を変更しないで終了する場合は、「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください（▶ P.108）。
- いったん設定内容を保存したあと、続けて他の項目を設定する場合は、「終了」メニューで「変更を保存する」を選択してください（▶ P.108）。
  1. 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、【Enter】キーを押します。
     「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
  2. 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 ご購入時の設定に戻す

「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」を実行したあとに、次の設定を変更してください。

- Windows 2000 モデルの場合
  - ・「詳細」－「プラグアンドプレイ対応 OS」: いいえ
  - ・「省電力」－「省電力モード」: 使用しない
- Windows NT モデルの場合
  - ・「詳細」－「プラグアンドプレイ対応 OS」: いいえ
  - ・「詳細」－「シリアル／パラレルポート設定」－「赤外線通信ポート」: 使用しない
  - ・「詳細」－「シリアル／パラレルポート設定」－「パラレルポート」－「モード」: 出力のみ
  - ・「省電力」－「省電力モード」－「ハードディスク省電力」: 使用しない
  - ・「省電力」－「省電力モード」－「スタンバイタイマー」: 16 分
  - ・「省電力」－「省電力モード」－「サスペンドタイマー」: 使用しない
  - ・「省電力」－「詳細設定」－「サスペンド／レジュームスイッチ」: 使用しない
  - ・「省電力」－「詳細設定」－「カバークローズサスペンド」: 使用しない
  - ・「省電力」－「詳細設定」－「カバーオープンレジューム」: 使用しない
- ワイヤレスマウス添付モデルの場合
  - ・「詳細」－「キーボード／マウス設定」－「ワイヤレスマウス」: 使用する
  - ・「詳細」－「キーボード／マウス設定」－「内蔵ポインティングデバイス」: 常に使用する
- 内蔵ポインティングデバイスなしモデルの場合
  - ・「詳細」－「キーボード／マウス設定」－「ホットプラグ」: 使用しない

4　メニュー詳細

メインメニュー

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

□ システム時刻

□ システム日付

□ フロッピーディスク A

□ プライマリマスター

□ セカンダリマスター

POINT

- 「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」（••▶P.108）を実行した直後は、「プライマリマスター」、「セカンダリマスター」の項目の自動設定が行われていません。BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

● タイプ

POINT

- 通常は「自動」に設定してください。

● シリンダ数
● ヘッド数
● セクタ数

POINT

- シリンダ数、ヘッド数、セクタ数を設定する場合は正しく行ってください。間違って設定すると、正常に動作しなくなります。
- 最大容量が 8.4GB を超えるハードディスクを取り付け、「タイプ」を「自動」に設定した場合は、シリンダ数、ヘッド数、セクタ数は表示されません。

● 最大容量
● マルチセクタ転送
● LBA モード制御
● PIO 転送モード
● DMA 転送モード

□ 言語（Language）

POINT

- 設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

詳細メニュー

「詳細」メニューでは、周辺機器の設定などを行います。

□プラグアンドプレイ対応 OS

POINT

- Windows 2000、Windows NT では「いいえ」に設定してください。

□デバイス設定の保護

□シリアル／パラレルポート設定

POINT

- I/O ポートアドレス、割り込み番号、DMA チャネルは、複数のデバイスに同じ設定値を割り当てないように注意してください。同じ設定値を割り当てると、項目名の左に＊が表示されます。

- シリアルポート
  - ・I/O アドレス
  - ・割り込み番号
- 赤外線通信ポート
  - ・モード

POINT

- 「FIR」に設定する場合は、高速モードに対応した赤外線通信用ソフトが必要です。また、FIR 用の「I/O アドレス」と「DMA チャネル」も設定してください。

  - ・I/O アドレス
  - ・割り込み番号
  - ・I/O アドレス
  - ・DMA チャネル
- パラレルポート
  - ・モード
  - ・I/O アドレス
  - ・割り込み番号
  - ・DMA チャネル

POINT

- 「DMA チャネル」は、「モード」の項目を「ECP」に設定したときに表示されます。通常「DMA チャネル」は「DMA 1」に設定してください。「DMA 3」は、標準設定値では赤外線通信ポートの FIR 用に割り当てられています。

□キーボード／マウス設定

- 起動時の Numlock 設定
- ホットプラグ

POINT

- PS/2 規格のマウスやキーボードのみ有効です。
- マウスやキーボードによっては、ホットプラグに対応していない場合があります。動作中のパソコン本体にマウスやキーボードを接続しても認識されない場合は、一度取り外し、しばらくしてからもう一度接続してください。それでも認識されない場合は、パソコン本体の電源を切るか、パソコン本体をサスペンドにして接続してください。
- ホットプラグ機能を有効にした状態で、お使いのキーボードやマウスの動作に異常が見られる場合は、ホットプラグ機能を無効にしてください。
- 拡張キーボード／マウスコネクタに、『バーコードリーダ（FMV-BCR101）』、『バーコードタッチリーダ（FMV-BCR201）』、『磁気カードリーダ（FMV-MCR101）』などの入力装置を接続する場合は、「使用しない」に設定してください。また、「省電力モード」（••▶P.104）の設定も「使用しない」に設定してください。
- 「内蔵ポインティングデバイス」の項目を「手動」または「常に使用しない」に設定した場合は、ホットプラグ機能は使用できません。

● 内蔵ポインティングデバイス

POINT

- Microsoft 社製の IntelliMouse™ などのホイール機能付き PS/2 マウスは、設定が「自動」または「常に使用しない」の場合のみ使用できます。

● ワイヤレスマウス（ワイヤレスマウス添付モデルのみ）

POINT

- ワイヤレスマウス受光部（••▶P.11）を搭載しているモデルのみ表示されます。
- 「使用する」に設定した場合は、PS/2 規格のマウスを接続しても使用できません。
- 「使用する」に設定した場合は、前項の「内蔵ポインティングデバイス」の設定を「常に使用する」にしてください（出荷時設定済）。

□ディスプレイ設定

● ディスプレイ

POINT

- 本パソコンの起動後は、キーボード操作や「画面のプロパティ」で画面表示を切り替えることができます（••▶『ソフトウェアガイド』参照）。

● 全体表示

POINT

- 本パソコンの起動後は、【Fn】キーを押しながら【F5】キーを押すことで表示の切り替えを行うことができます。

□ その他の内蔵デバイス設定

- フロッピーディスクコントローラ
- IDE コントローラ
- 内蔵モデム（モデム搭載モデルのみ）
- 内蔵 LAN デバイス（LAN 搭載モデルのみ）
- 指紋センサー（指紋センサーモデルのみ）

□ PCI 設定

- 割り込み番号の予約
  ・IRQ 3 ～ IRQ 11

□ CPU 設定（FMV-6000NU/L、FMV-6700NU9/L のみ）

- プロセッサシリアルナンバ

POINT

▶ Intel プロセッサ・シリアルナンバ・コントロールユーティリティを使用する場合は、「使用する」に設定してください。「使用しない」に設定した場合、Intel プロセッサ・シリアルナンバ・コントロールユーティリティなどのユーティリティで Enabled に設定できなくなります（本パソコンには Intel プロセッサ・シリアルナンバ・コントロールユーティリティは添付されていません。詳細については、http://www.intel.com/jp/pentiumiii/ をご覧ください）。

- Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ

□ USB 設定

- USB フロッピーディスク

□ イベントログ設定

- イベントログ領域の状態
- イベントログ内容の状態
- イベントログの表示

POINT

▶ イベントログメッセージで、「POST エラー : XXXXXXXX XXXXXXXX」というメッセージが表示された場合は、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口にご連絡ください。それ以外のメッセージは、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。

- イベントログ
  ・システム起動
- イベントログの消去
- イベントログのマーク

セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを特定の人だけが使用できるよう設定を行います。

□ 管理者用パスワード

□ ユーザー用パスワード

□ 管理者用パスワード設定

POINT

- 次の項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に設定できます。
  - ・ユーザー用パスワード設定
  - ・ユーザー用パスワード文字数
  - ・起動時のパスワード
  - ・自動起動時のパスワード
  - ・レジューム時のパスワード
  - ・取り外し可能なディスクからの起動
  - ・フロッピーディスクアクセス
  - ・スマートカードによるロック
  - ・ハードディスクセキュリティ
  - ・所有者情報

□ ユーザー用パスワード設定

POINT

- 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている状態で、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

□ ユーザー用パスワード文字数

POINT

- 本項目はユーザー用パスワードでBIOSセットアップに入った場合のみ有効です。管理者用のパスワードでBIOSセットアップに入った場合は、最低文字数より少ない文字をユーザー用パスワードとして設定することができます。

□ 起動時のパスワード

□ 自動起動時のパスワード

POINT

- 「省電力」メニューの「詳細設定」の「LAN によるレジューム」を「使用する」に設定している場合に有効です。
- USB 規格の周辺機器は「自動起動時のパスワード」によるセキュリティの対象外になります。そのため、USB マウスなどの USB 機器はパスワードを入力しなくても使用できます。

□ レジューム時のパスワード

POINT

- ACPI に対応した OS では、本項目は無効になります。
- 本設定が有効の場合は次の点にご注意ください。
  - ・本項目を「使用する」に設定した場合は、レジュームの際に起動時に入力したパスワードを入力するまで、キーボードやマウスの入力が無効になります。
  - ・USB 規格の周辺機器は「レジューム時のパスワード」によるセキュリティの対象外になります。そのため、USB マウスなどの USB 機器はパスワードを入力しなくても使用できます。

□ 取り外し可能なディスクからの起動

□ フロッピーディスクアクセス

POINT

- 本項目は、BIOS 経由でアクセスしない OS（Windows NT など）では、正しく動作しません。

□ スマートカードによるロック

POINT

- 本項目は、スマートカードホルダーをセットしている場合のみ表示されます。
- 本項目を「使用する」に設定すると、次の項目が設定できなくなります。
  - ・管理者用パスワード設定
  - ・ユーザー用パスワード設定
  - ・ユーザー用パスワード文字数
  - ・自動起動時のパスワード（常に「使用しない」となります）
- スマートカードによるセキュリティの設定方法は、『スマートカードホルダー取扱説明書』をご覧ください。

□ ハードディスクセキュリティ

- ● プライマリマスター用パスワード
- ● セカンダリマスター用パスワード
- ● プライマリマスター用パスワード設定
- ● セカンダリマスター用パスワード設定

重 要

- 本パソコンでセキュリティを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。使用する場合は、本パソコンで設定したハードディスクセキュリティのパスワードの設定が必要となります。

□ 所有者情報

POINT

- 管理者用パスワードが設定されていない場合は、「所有者情報」の各項目は表示されますが、選択できません。

- 所有者情報
- 所有者情報設定
- 文字色
- 背景色

□ ハードディスク起動セクタ

POINT

- OS をインストールするときは、必ず「通常動作」に設定してください。
- この設定は、BIOS を経由しないで直接ハードディスクにアクセスする OS（Windows NT など）では、正しく動作しません。

□ レジューム時のセキュリティボタン（セキュリティボタン搭載モデルのみ）

省電力メニュー

「省電力」メニューでは、省電力モードに関する設定を行います。
省電力モードは、本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、消費する電力を減らして待機する機能です。

POINT

- ACPI に対応した OS では項目によっては設定が無効になることがあります。詳しくは各項目の説明をご覧ください。
- BIOS セットアップでは Windows Me、Windows 98 または Windows 2000 の「スタンバイ」を「サスペンド」、「休止状態」を「Save To Disk」と表記しています。

□ 省電力モード

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目は無効になります。

- ハードディスク省電力

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」の「ハードディスクの電源を切る」の設定が有効になります。

- スタンバイタイマー

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目は無効になります。

● サスペンドタイマー

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」の「システムスタンバイ」の設定に従って、サスペンドします。

□ サスペンド動作

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」の「電源ボタン」の設定が有効になります。
  ACPI に対応していない OS の場合は、次の点にご注意ください。
  ・本項目を「サスペンド」に設定しても Save To Disk 状態になる場合
  -【Fn】キーを押しながら SUS/RES スイッチを押したとき
  ・本項目を「Save To Disk」に設定したり、「自動 Save To Disk」の項目を「1 時間後に移行する」に設定しても、サスペンド状態になる場合
  - Save To Disk 領域があらかじめ作成されていないとき
  -「モデム着信によるレジューム」や「時刻によるレジューム」（••▶ P.105）が「使用する」に設定されているとき
  - LOW バッテリ状態で自動的にサスペンドするとき

● 自動 Save To Disk

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目は無効となります。

□ モデム着信によるレジューム

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目は無効となり、通信ソフトの設定が有効になります。
  ACPI に対応していない OS で「使用する」に設定する場合は次の点にご注意ください。
  ・本パソコンがレジューム後、アプリケーションが電話回線からの着信を検出できるよう、モデムの自動応答回数を設定してください。モデムの設定方法については、お使いになるモデムのマニュアルをご覧ください。
  ・サスペンド時の消費電力が増加するため、サスペンド状態の保持時間が短くなります。この場合は、AC アダプタをお使いください。

□ 時刻によるレジューム

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目が無効となり、「タスク」または「タスクスケジューラ」の設定が有効になります。

□ レジューム時刻

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目が無効となり、「タスク」または「タスクスケジューラ」の設定が有効になります。

□ 詳細設定

● サスペンド／レジュームスイッチ

POINT

▶ ACPI に対応した OS では本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」の設定が有効になります。

● カバークローズ サスペンド

POINT

▶ ACPI に対応した OS では本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」の設定が有効になります。
▶ ACPI に対応していない OS で「使用する」に設定したときは、次の場合は液晶ディスプレイを閉じてサスペンドしないでください。
・ ハードディスクアクセス時や PC カード使用時
・ OS の終了処理時

● カバーオープン レジューム

POINT

▶ ACPI に対応した OS では本項目は無効となります。

● LAN によるレジューム（LAN 搭載モデルのみ）

POINT

▶ ACPI に対応した OS では本項目は無効となります。

起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

□ 高速起動

□ 起動時の自己診断画面

□ ネットワークサーバからの起動（LAN 搭載モデルのみ）

□ 起動デバイスの優先順位

● フロッピーディスクドライブ
● ハードディスクドライブ
● ATAPI CD-ROM ドライブ
● Intel(R) Boot Agent Version 3.0.04（LAN 搭載モデルのみ）

POINT

- 利用可能な起動デバイスが、起動時の検索順序の高い順に表示されます。ただし、「Intel(R) Boot Agent Version 3.0.04」は、LAN 搭載モデルで「ネットワークサーバからの起動」が「使用する」に設定されている場合に表示されます。なお、「ネットワークサーバからの起動」を「使用する」に設定した場合、「Intel(R) Boot Agent Version 3.0.04」の優先順位は、再起動後に設定可能となります。
- CD から起動するには起動可能な OS の入った CD が必要となります。
再起動前に本パソコンに CD をセットしてください。

情報メニュー

「情報」メニューには、BIOS セットアップやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

□ BIOS 版数

□ BIOS 日付

□ BIOS 領域

□ CPU タイプ

□ CPU 速度

□ L1 キャッシュ

□ L2 キャッシュ

□ 全メモリ容量

- メモリスロット 1 (標準メモリスロット)
- メモリスロット 2 (増設メモリスロット)

POINT

- メモリを取り付けていないときは、「未使用」と表示されます。

終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

□ 変更を保存して終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存して BIOS セットアップを終了します。

□ 変更を保存せずに終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存しないで BIOS セットアップを終了します。

□ 標準設定値を読み込む

すべての項目を標準設定値にします。

□ 変更前の値を読み込む

すべての項目について、CMOS RAM から変更前の値を読み込み、変更を取り消します。

□ 変更を保存する

変更した内容をカスタム設定値として保存します。

POINT

- お使いのモデルによっては、「標準設定値を読み込む」を実行しても、一部の項目がご購入時の設定に戻りません。
  「ご購入時の設定に戻す」（··▶ P.97）

5 BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、本パソコンのデータを守るためのパスワード機能について説明します。

本パソコンは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使用できなくなります。

パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次の 2 つです。

- 管理者用パスワード
  本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。
- ユーザー用パスワード
  「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方（ご家族など）が使用するパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

パスワードの設定は、BIOS セットアップで行います。パスワードの設定方法は、次のとおりです。

1 BIOS セットアップを起動します。

「BIOS セットアップを起動する」（••▶ P.93）

2 セキュリティメニュー（••▶ P.102）の「管理者用パスワード設定」、または「ユーザー用パスワード設定」を選択して【Enter】キーを押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

または

3 8 桁までのパスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。
入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。
また、ユーザー用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード設定」（••▶P.102）で設定することができます。

4 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

重 要

- 管理者用パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用パスワードを忘れてしまった場合は、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口までご連絡ください。

5 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。

「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。

6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順 3 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

■ パスワード設定後のパソコンの起動

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力を要求されます。

- BIOS セットアップを起動するとき
- 本パソコンを起動するとき

パスワードの入力を要求するウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

POINT

- 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。
- Windows 2000 の「電源オプションのプロパティ」または Windows Me、Windows 98 の「電源の管理のプロパティ」で、「スタンバイおよび休止状態から回復時にパスワードを入力する」または「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」の設定を有効に設定した場合は、レジューム時のパスワードを設定できます。ただし、この場合は Windows のパスワードを入力してください。

重 要

- ハードディスクセキュリティ（••▶P.103）を設定したハードディスクを他のパソコンに接続して使用する場合も、本パソコンで設定したハードディスクセキュリティのパスワードの設定が必要となります。パスワードを忘れるとそのハードディスクは使用できなくなるので、ご注意ください。
- USB 規格のオプション機器は「レジューム時のパスワード」によるセキュリティの対象外になります。そのため、USB マウスなどの USB 機器はパスワードを入力しなくても使用できます。

パスワードを忘れてしまったら

管理者用パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用パスワードを忘れてしまった場合は、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口までご連絡ください。

パスワードを変更する／削除する

■ パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

1 「パスワードを設定する」の手順 1 ～ 2（••▶ P.109）を行います。

2 設定してあるパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。

3 8 桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

4 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。
「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。

5 【Enter】キーを押して、設定を終了します。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順 3 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

POINT

- 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

■ パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順 3 ～ 4 で何も入力せずに、【Enter】キーを押してください。

POINT

- ユーザーがユーザー用パスワードを削除できるのは、ユーザー用パスワード文字数設定が 0 のときだけです。0 以外のとき、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。

6 BIOS が表示するメッセージ一覧

メッセージが表示されたときは

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップを再実行します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの、各項目を正しい値に設定してください。
それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して起動し直してください。
「ご購入時の設定に戻す」（▶ P.97）

POINT

- お使いの OS により、設定する値が異なる場合があります（▶『ソフトウェアガイド』参照）。

2 周辺機器を取り外します。

周辺機器を取り付けている場合には、すべての周辺機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。
それでも同じメッセージが表示される場合には、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1 つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を 1 つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。
また、割り込み番号（IRQ）を使用する周辺機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処理を実行しても、まだ同じメッセージが表示される場合は、本パソコンが故障している可能性があります。富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

本パソコンは、自動的に故障を検出します。故障の検出は、通常 POST（••▶ P.92）時に行われます。本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

POINT

- メッセージ中の「n」「x」「z」には数字が表示されます。

■ 正常時のメッセージ

- **<ESC> キー：自己診断画面 /<F12> キー：起動メニュー /<F2> キー：BIOS セットアップ**
  起動時の「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に【Esc】キーを押すと起動時の自己診断画面が表示され、【F2】キーを押すと BIOS セットアップが起動します。また、【F12】キーを押すと「起動メニュー」画面（••▶P.94）が表示されます。
- **<F12> キー：起動メニュー /<F2> キー：BIOS セットアップ**
  起動時の自己診断画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に【F12】キーを押すと「起動メニュー」画面（••▶P.94）が表示され、【F2】キーを押すと BIOS セットアップが起動します。
- **BIOS セットアップを起動しています ...**
  BIOS セットアップの起動中に表示されます。
- **nnnM システムメモリテスト完了。**
  システムメモリのテストが、正常に完了したことを表示しています。
- **nnnnK メモリキャッシュテスト完了。**
  キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- **システム BIOS がシャドウメモリにコピーされました。**
  システム BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示しています。
- **マウスが初期化されました。**
  マウス機能が初期化され、ポインティングデバイスが使えるようになったことを示しています。

POINT

- 正常時のメッセージを表示させる場合は、「FUJITSU」のロゴマークが表示されているときに、【Esc】キーを押します。また、常に表示させる場合は、「起動」メニューの「起動時の自己診断画面」の項目を「表示する」（••▶P.106）に設定してください。

■ エラーメッセージ

- **システムメモリエラー。オフセットアドレス : xxxx**
  誤りビット : zzzz zzzz
  システムメモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。
  メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
  メモリを取り外しても本メッセージが表示されるときは、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。
- **拡張メモリエラー。オフセットアドレス : xxxx**
  誤りビット : zzzz zzzz
  拡張メモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。
  メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。
  それでも本メッセージが表示されるときは、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。
- **メモリキャッシュのエラーです。-- キャッシュは使用できません。**
  キャッシュメモリのテスト中に、エラーが発見されたことを示しています。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。
- **キーボードコントローラのエラーです。**
  キーボードコントローラのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。
- **キーボードエラーです。**
  キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。
  テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。
- **フロッピーディスク A のエラーです。**
  フロッピーディスクドライブのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  もう一度電源を入れ直してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。
- **ディスクエラーです。: ハードディスク n**
  ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。
  BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「プライマリマスター」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。
- **システムタイマーのエラーです。**
  システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。
- **リアルタイムクロックのエラーです。**
  リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。

- **システム CMOS のチェックサムが正しくありません。- 標準設定値が設定されました。**
  CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。
  【F2】キーを押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。
- **前回の起動が正常に完了しませんでした。- 標準設定値が設定されました。**
  前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。
  起動途中に電源を切ってしまったり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかったとき、3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は【F1】キーを押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は【F2】キーを押してください。
- **<F1> キー：継続 /<F2> キー：BIOS セットアップ**
  起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、【F2】キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。
- **日付と時刻の設定を確認してください。**
  日付と時刻の設定値が不正です。
  設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
- **パスワードで保護されています。: ハードディスク n**
  取り付けたハードディスクドライブが、パスワードロック機能で保護されていることを示しています。そのハードディスクドライブが取り付けられていたパソコンで設定したハードディスクセキュリティのパスワードを、本パソコンにも設定してください。パスワードがわからない場合は、そのハードディスクドライブは使用できません。
- **サポートされないタイプのメモリが検出されました。**
  本パソコンでサポートされていないメモリが取り付けられていることを示しています。
  メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
  それでも本メッセージが表示されるときは、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。
- **メモリタイプのエラーです。：SPD が 66MHz のメモリを示しています。**
  本システムには 100MHz のメモリが必要です。電源を落としてください。
  本パソコンでサポートされていないメモリが取り付けられていることを示しています。
  メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
  それでも本メッセージが表示されるときは、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。
- **SPD が見つかりませんでした。- メモリ速度が不明です。**
  システムを正しく動作させるためには SPD が必要です。
  メモリ速度 100MHz で起動しますか？
  <Y> を押すとこのまま起動し、<N> を押すとシステムを停止します。
  メモリの SPD データを検出できなかったことを示しています。
  【N】キーを押して電源を切り、メモリを増設しているときはメモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
  それでも本メッセージが表示されるときは、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。

- **SPD が見つかりませんでした。- メモリ速度が不明です。**
  メモリ速度 100MHz で起動します。
  メモリの SPD データを検出できなかったことを示しています。
  メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
  それでも本メッセージが表示されるときは、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。
- **NVRAM データが正しくありません。**
  NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。
  富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。
- **ハードディスク上の Save To Disk 領域が見つかりませんでした。**
  Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成してください。
  ハードディスク上に、Save To Disk 領域が確保されていないことを示しています。
- **ハードディスク上の Save To Disk 領域が不足しています。**
  Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。
  ハードディスク上の Save To Disk 領域の容量が不足しているため、Save To Disk 機能を使用できないことを示しています。
- **ハードディスクが検出されませんでした。**
  Save To Disk 機能は使用できません。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。
- **不明な Save To Disk エラーが発生しました。**
  Save To Disk 機能は使用できません。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。
- **ハードディスクからの読み取りに失敗しました。**
  Save To Disk 機能は使用できません。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。
- **ハードディスクへの書き込みに失敗しました。**
  Save To Disk 機能は使用できません。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。
- **ハードディスク上の Save To Disk 領域が壊れている可能性があります。**
  Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。
- **Save To Disk を行ったハードディスクが検出されなかったため、システム状態を復元できませんでした。**
  システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。
  <F1> キーを押すと、このまま起動します。
- **Save To Disk を行ったハードディスクが交換されているため、システム状態を復元できませんでした。**
  システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。
  <F1> キーを押すと、このまま起動します。

- Invalid system disk
  Replace the disk, and then press any key
  フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
  フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- Non-System disk or disk error
  Replace and press any key when ready
  フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
  フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- Operating system not found
  OS が見つからなかったことを示しています。
  BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。
- PXE-E61:Media test failure, Check cable
  Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。LAN ケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、ご購入元または富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口に連絡してください。
- PXE-E51:No DHCP or BOOTP offers received
  Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。起動時に必要な IP アドレスが取得できませんでした。ブートサーバを正しく設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、ご購入元または富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口に連絡してください。
- PXE-E53:No boot filename received
  Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバから boot filename を取得できませんでした。ブートサーバを正しく設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、ご購入元または富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口に連絡してください。
- PXE-E78:Could not locate boot server
  Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバがないか、正しく動作していません。ブートサーバを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、ご購入元または富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口に連絡してください。
- PXE-E89:Could not download boot image
  Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバ上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、ご購入元または富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口に連絡してください。
- PXE-E32:TFTP open timeout
  Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、ご購入元または富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口に連絡してください。

POINT

- 本書に記述されていないシステムエラーメッセージが表示された場合は、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。

第 4 章

困ったときに

本パソコンにトラブルが発生したときや、メッセージが表示されたときなど、どうすればいいのかを説明しています。必要に応じてお読みください。

1 こんなときには

困ったとき、ヘン！と思ったとき、こんなことがしたい…というときに読んでください。関連項目ごとにわけて説明しています。ソフトウェアについては『ソフトウェアガイド』をご覧ください。

□ 電源が入らない

- **AC アダプタは接続されていますか？**
  お買い上げ後、最初にお使いになるときなど、バッテリが充電されていない場合は、AC アダプタを接続してください（••▶P.33）。
- **MAIN スイッチを ON にしてありますか？**
  MAIN スイッチが ON になっていないと、SUS/RES スイッチを押しても電源は入りません（••▶P.34）。
- **バッテリは充電されていますか（バッテリ運用時）？**
  状態表示 LCD（••▶P.19）でバッテリ残量を確認してください。バッテリが充電されていない場合は、AC アダプタを接続してお使いください（••▶P.33）。
- **長期間未使用状態ではありませんでしたか？**
  長期間お使いにならなかった後でお使いになるときは、AC アダプタを接続し、MAIN スイッチを ON にして電源を投入してください（••▶P.33）。

□ 液晶ディスプレイに何も表示されない

- **状態表示 LCD に ⏻ が点灯していますか？**
  - **点灯している場合**
    【Fn】キーを押しながら【F6】キー、または【Fn】キーを押しながら【F7】キー（••▶P.27）を押して明るさを調節してください。
  - **点滅または消灯している場合**
    SUS/RES スイッチを押して動作状態にしてください。また、バッテリ運用時は、バッテリが充電されているか確認してください。充電されていないときには、AC アダプタを接続して充電してください（••▶P.42）。
    AC アダプタをお使いになっている場合は、コンセント、およびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。
- **状態表示 LCD に何か表示されていますか？**
  何も表示されていないときは電源が入っていません。パソコン本体の電源を入れてください（••▶P.33）。
- **キーを操作していましたか？**
  本パソコンには省電力機能が設定されており、一定時間キーを押さないと CPU が停止したり、液晶ディスプレイのバックライトが消灯したりします（何かキーを押すとバックライトが点灯します）。頻繁に停止してしまうときは、Windows Me、Windows 98 では「電源の管理のプロパティ」、Windows 2000 では「電源オプションのプロパティ」、Windows NT では BIOS セットアップの「省電力モード」の「スタンバイタイマー」で省電力の設定を変更してください。
- **外部ディスプレイ出力に設定されていませんか？**
  【Fn】キーを押しながら【F10】キーを押して LCD 表示に切り替えてください（••▶P.27）。

□液晶ディスプレイの表示が見にくい

- **液晶ディスプレイは見やすい角度になっていますか？**
  液晶ディスプレイの角度を調節してください。
- **明るさなどを調節しましたか？**
  【Fn】キーを押しながら【F6】キー、または【Fn】キーを押しながら【F7】キーを押して調節してください（••▶P.27）。

□液晶ディスプレイが閉まらない

- **間に物がはさまっていませんか？**
  無理に閉めようとすると液晶ディスプレイに傷をつけることがあります。物がはさまっていないか確認してください。また、クリップなどの金属製品がキーのすき間などに入ると、故障の原因になります。

□バッテリ残量表示の点滅が止まらない

- **バッテリは正しく取り付けられていますか？**
  バッテリが正しく取り付けられているか確認してください。正しい場合は、バッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください（••▶P.47）。
- **LOW バッテリ状態（••▶P.45）ではありませんか？**
  AC アダプタを取り付けてバッテリを充電してください（••▶P.42）。

□バッテリが充電されない

- **AC アダプタは接続されていますか？**
  AC アダプタを接続している場合は、コンセントおよびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください（••▶P.33）。
- **バッテリが熱くなっていませんか？（状態表示 LCD の ➡ が点滅します）**
  周囲の温度が高いときや使用中にバッテリの温度が上昇すると、バッテリの保護機能が働いて、充電を止めることがあります。
- **パソコン本体が冷えていませんか？（状態表示 LCD の ➡ が点滅します）**
  バッテリの温度が 5 ℃以下になっていると、バッテリの保護機能が働いて、充電を止めることがあります。
- **充電を途中で中断させていませんか？**
  充電を始めてから、状態表示 LCD の ➡ が消灯するまでの間に本パソコンを使用したり、AC アダプタを取り外すと、バッテリの特性により充電が不完全に終わることがあります。この場合は、本パソコンをしばらくの間バッテリで稼動させ、バッテリ残量（••▶P.44）が 89% 以下になってから充電してください。また、いったん充電を開始したら、状態表示 LCD の ➡ が消灯するまで AC アダプタを接続したまま充電を終わらせてください。

□ハードディスクが使えない

- **エラーメッセージは出ていませんか？**
  各エラーメッセージ（••▶P.114）を参照してください。

□PC カードが使えない

- **PC カードスロットに正しくセットされていますか？**
  PC カードのセットを確認してください（••▶P.53）。

□ フロッピーディスクが使えない

- **ディスクは正しくセットされていますか？**
  ディスクのシャッタのある側から、ラベルの貼ってある面を上向きにして、カシャッと音がするまでしっかりと差し込みます。
- **ディスクはフォーマットしてありますか？**
  ディスクをフォーマットしてください。
- **BIOS セットアップの「フロッピーディスク A」と「フロッピーコントローラ」の項目を正しく設定していますか？**
  フロッピーディスクの場合は、BIOS セットアップの「フロッピーディスクA」の項目（▶P.98）を「1.44/1.2MB 3.5」に、「フロッピーディスクコントローラ」の項目（▶P.101）を「使用する」に設定してください。
- **BIOS セットアップの「フロッピーディスクアクセス」の項目を「管理者のみ可能」に設定していませんか？**
  フロッピーディスクの場合は「常に可能」に設定してください。スーパーディスクの場合は本設定でアクセス制限はできません。
- **ディスクが書き込み禁止になっていませんか？**
  ディスクの書き込み禁止タブを書き込み可能な位置にしてください。
- **別のディスクは使用できますか？**
  別のディスクが使用できる場合、使用できないディスクは壊れている可能性があります。

□ CD からデータの読み出しができない

- **CD が正しくセットされていますか？**
  CD のレーベル面を上にして、正しくセットしてください（▶P.65）。
- **CD が汚れていたり、水滴がついていませんか？**
  乾いた柔らかい布で、中央から外側に向かって拭いてください。
- **CD が傷ついたり、極端に反っていませんか？**
  CD を交換してください。
- **規格外の CD を使用していませんか？**
  規格に合った CD をお使いください。
- **内蔵 CD-ROM ドライブユニットをしっかり取り付けましたか？**
  マルチベイに内蔵 CD-ROM ドライブユニットをしっかり取り付けます（▶P.61）。

□ CD が取り出せない

- **パソコン本体は動作状態になっていますか？**
  本パソコンの内蔵 CD-ROM ドライブは電子ロックのため、パソコン本体が動作状態の場合のみ CD のセット／取り出しが可能です（▶P.65）。
  なお、何らかの原因でトレーが出ない場合は、「マイコンピュータ」ウィンドウの CD-ROM アイコンを右クリックし、「取り出し」をクリックしてください。それでも出ない場合は、内蔵 CD-ROM ドライブユニット前面の EJECT ボタンの右側の穴をボールペンなどでつついてください（▶P.66）。

□ CD アクセス表示が点滅する

- **自動挿入が有効になっていませんか？**
  Windows Me または Windows 98 で CD の自動挿入が有効になっていると、定期的に CD の有無の検出が行われます。自動挿入を無効にしてください（▶P.21）。

□ スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- **スピーカーの出力は ON になっていますか？**
  【Fn】キーを押しながら【F3】キーを押してスピーカーの出力を確認してください（••▶P.27）。
- **音量ボリュームは正しく調節されていますか？**
  音量ボリューム（••▶P.16）を回して、適正な音量にしてください。また、OS の「音量の調整」または「ボリュームコントロール」などの設定（ミュートや音量など）を確認してください。音が割れる場合は音量を小さくしてください。それでも変わらないときは、サウンドドライバが正しくインストールされているか確認してください。

□ マイクやラインイン・ジャックからうまく録音ができない

- **音量は調節されていますか？**
  OS の「音量の調整」または「ボリュームコントロール」などの録音の項目を有効にし、音量調節を行ってください（••▶『ソフトウェアガイド』参照）。

□ 省電力機能が実行されない

- **Windows Me, Windows 98 および Windows 2000 の場合**
  OS の省電力機能を「なし」に設定していませんか？
  「コントロールパネル」の「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」で設定してください。
- **Windows NT の場合**
  BIOS セットアップの「省電力モード」の「スタンバイタイマー」の項目を「使用しない」に設定していませんか？
  BIOS セットアップの「省電力モード」の「スタンバイタイマー」の項目を「使用しない」以外に設定してください。ご購入時の設定は「16 分」です。

□ ワイヤレスマウスが動作しない

- **電池は正しい方向に入っていますか？**
  電池を正しい方向に入れてください（••▶P.80）。
- **マウスをパソコン本体の受光部に向けていますか？**
  マウスを受光部に向けてください（••▶P.77）。
- **マウスとパソコン本体の受光部の間に遮蔽物がありませんか？**
  遮蔽物を移動させてください。
- **マウスの送信範囲内にパソコン本体の受光部が位置していますか？**
  送信範囲内にパソコン本体を設置してください（••▶P.77）。

□ ワイヤレスマウスが混信してしまう

- **相互に異なる ID を設定していますか？**
  異なる ID に設定してください（••▶P.79）。

□ ワイヤレスマウスの動作が不安定になる

- **電池は寿命ではありませんか？**
  新しい電池と交換してください（••▶P.80）。
- **ボールやローラーなどにゴミが付いていませんか？**
  マウス内部をクリーニングしてください（••▶P.81）。

□ 画面にメッセージが表示された

メッセージ一覧（••▶P.113）をご覧ください。

それでも解決できないときは

どうしても原因がわからないときは、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口またはご購入元へご連絡ください（••▶『ソフトウェアガイド』参照）。

5

第 5 章

技術情報について

本パソコンの仕様などを記載しています。

1 ハードウェアのお手入れ

パソコン本体のお手入れ

⚠ 警告

- 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
  - ・パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
  - ・プリンタなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

パソコン本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、パソコン本体に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

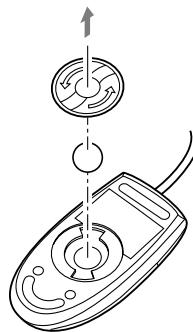
マウスのお手入れ

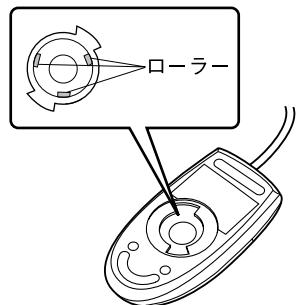
表面の汚れは、柔らかい布でから拭きします。マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。

1 マウスの裏ブタを取り外します。

マウス底面にある裏ブタを、矢印の方向に回して取り外します。

2 ボールを取り出して、水洗いします。

マウスをひっくり返し、ボールを取り出します。その後、水洗いして十分に乾燥させます。

3 マウス内部をクリーニングします。

マウス内部、ローラー、および裏ブタを水に浸して固く絞った布で拭きます。

4 ボール、裏ブタを取り付けます。

ボールとマウスの内部を十分乾燥させたら、ボールと裏ブタを取り付けます。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは、長い間使用していると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売のクリーニングフロッピーを使用して、3ヶ月に 1 回程度の割合でクリーニングしてください。

■ 用意するもの

商品名：クリーニングフロッピィマイクロ
商品番号：0212116
（富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：03-3342-5375）

■ お手入れのしかた

□ Windows Me、Windows 2000 または Windows NT の場合

1. クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットします。
2. コマンドプロンプトから､dir などのディスクにアクセスするコマンドを実行します。
   例：次のように入力し、【Enter】キーを押します。
   ```
   dir a:
   ```
3. フロッピーディスクアクセス表示が消えているのを確認して、クリーニングフロッピーを取り出します。

□ Windows 98 の場合

1. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
2. 「名前」に次のように入力して【Enter】キーを押します。
   ```
   c:¥fjuty¥clndsk 0
   ```
3. クリーニングフロッピーをセットして【Enter】キーを押します。
   ヘッドクリーニングが始まり、「クリーニング中です。あと XX 秒」と表示されます。
   「ヘッドクリーニングが終了しました。」とメッセージが表示されたら終了です。
4. フロッピーディスクアクセス表示が消えているのを確認して、クリーニングフロッピーを取り出します。

2 外部ディスプレイの走査周波数について

外部ディスプレイ表示のみの場合

ディスプレイドライバにより下表の走査周波数を選択することができます。
ただし、外部ディスプレイによっては、選択しても表示できない走査周波数があります。そのときは、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に切り替えて、選択し直してください。

解像度（ドット）	水平走査周波数（kHz）	垂直走査周波数（Hz）
640 × 480	31 〜 43	60 〜 85
800 × 600	37 〜 53	60 〜 85
1024 × 768	48 〜 68	60 〜 85
1280 × 1024	64 〜 91	60 〜 85
1600 × 1200	75 〜 87	60 〜 70

同時表示の場合

外部ディスプレイの走査周波数は解像度や色数に関係なく一定です。

水平走査周波数（kHz）	垂直走査周波数（Hz）
48.4	60

POINT

- お使いになる外部ディスプレイによっては、外部ディスプレイ表示に切り替えた場合、画面が正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルでサポートする走査周波数を確認し、「リフレッシュレート」の設定値を変更してから外部ディスプレイ表示に切り替えてください。
- 「リフレッシュレート」とは、1 秒間に画面を書き替える回数を周波数（単位は Hz）で表したものです。垂直同期周波数ともいいます。リフレッシュレートの値が高いほど、画面のちらつきが感じられなくなります。

3 その他の注意事項

廃棄について

■ 富士通リサイクルシステムについて

平成 13 年 4 月より「資源の有効利用の促進に関する法律」が施行されました。弊社では平成 10 年より、法人のお客様から排出されるパソコンを「富士通リサイクルシステム」（有料）にて回収リサイクルし、資源の有効利用に取り組んでおります。
お問い合わせ、お申し込み先：（株）富士通ロジスティックス（電話番号：045-470-5305）
なお、法人以外のお客様はお申し込みできません。
個人のお客様の場合には、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

■ パソコン本体の廃棄について

本パソコンの液晶ディスプレイ（LCD）内のバックライト（蛍光管）の中には、水銀が含まれています。また、本パソコンはリチウム電池を、またバッテリパックはリチウムイオン電池を使用しており、火中に投じると破裂のおそれがあります。本パソコンの廃棄にあたっては、「富士通リサイクルシステム」をご利用ください。

テレビやラジオなどの受信障害防止について

本パソコンは、テレビやラジオなどの受信障害を防止する VCCI の基準に適合していますが、設置場所によっては、本パソコンの近くにあるテレビやラジオなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じても、本パソコンの故障ではありません。
テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、次のような項目にご注意ください。

■ 本パソコンの注意事項

- 周辺機器と接続するケーブルは、指定のケーブルを使用し、それ以外のケーブルは使用しないでください。
- ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかり締めてください。
- 本パソコンの AC アダプタは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

■ テレビやラジオなどの注意事項

- テレビやラジオなどを、本パソコンから遠ざけて設置してください。
- テレビやラジオなどのアンテナを、受信障害が生じない位置や方向にしてください。
- アンテナ線は、同軸ケーブルを使用してください。

本パソコンが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本パソコンの電源を切ることで確認できます。
テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、上記の項目を再点検してください。それでも改善されない場合は、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にご連絡ください。

4 仕様一覧

本体仕様

■ FMV-6000NU/L、FMV-6700NU9/L

		FMV-6000NU/L	FMV-6700NU9/L
CPU （※ 1）		Intel®SpeedStep™ テクノロジ対応 Pentium®III プロセッサ 850 / 800 / 750MHz	Intel®SpeedStep™ テクノロジ対応 Pentium®III プロセッサ 700MHz
キャッシュメモリ		32KB ＋ 256KB（CPU 内蔵）	
BIOS ROM		1MB（Flash ROM）	
メインメモリ （※ 2）（※ 3）（※ 4）		標準 64 / 128 / 192 / 256MB（SDRAM） 最大 512MB（拡張 RAM モジュール 64/128/256MB、空きスロット× 1）	
システムバスクロック		100MHz	
内蔵ハードディスク （※ 5）		2.5 インチ 10GB / 20GB/30GB	
フロッピーディスクドライブ		3.5 インチ［1.44MB / 1.2MB （※ 6） / 720KB ］	
マルチベイ		CD-ROM ドライブユニット（最大 24 倍速、平均 17 倍速） CD-R/RW ドライブユニット（書き込み最大 8 倍速、書き換え最大 4 倍速、 読み出し最大 24 倍速 （※ 7）） マルチベイ用カバー のいずれかが搭載	
表示機能	画面制御 / VRAM 容量	Intel® 社製 815EM（チップセット内蔵）/ 最大 7MB （※ 8）	
	LCD（ドットピッチ）（※ 9）	14.1 型 TFT カラー 1024 × 768 ドット （0.279 mm）	
	色数	1024 × 768 ドット：1677 万色 （※ 10）	
	外部ディスプレイ表示	最大 1600 × 1200 ドット：256 色	
	同時表示	1024 × 768 ドット：1677 万色 （※ 10）	
音源機能		AC-Link 接続サウンドチップ（16bit ステレオ PCM）、 ソフトウェア Wavetable 機能内蔵、 内蔵スピーカー（ステレオ）、内蔵マイク（モノラル）	
キーボード		一体型 OADG 配列準拠 93 キー（Windows キー、アプリケーションキー付）、 一体型親指シフト配列 95 キー（Windows キー、アプリケーションキー付） のいずれかが搭載	
ポインティング デバイス		フラットポイント または無し（PS/2 マウス付）	
内蔵 LAN （※ 11）		100BASE-TX/10BASE-T	
内蔵モデム （※ 12）		データ：最大 56kbps（V.90）／ FAX：最大 14.4kbps	

		FMV-6000NU/L	FMV-6700NU9/L
インターフェース	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type I/II × 2 スロット または Type III × 1 スロット（CardBus 対応）	
	外部ディスプレイ	アナログ RGB Mini D-SUB 15 ピン	
	パラレル	ECP 対応 D-SUB 25 ピン	
	シリアル	RS-232C D-SUB 9 ピン（16550A 互換）	
	拡張キーボード / マウス	PS/2 タイプ Mini DIN 6 ピン	
	USB（※ 13）	USB コネクタ 4 ピン× 2	
	サウンド	ヘッドフォン出力、ライン入力：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック×各 1 マイク入力：φ3.5mm モノラル・ミニジャック× 1	
	赤外線ポート（※ 14）	IrDA1.1 準拠 （最大 4Mbps）	
	LAN	モジュラージャック（RJ-45）	
	FAX モデム（※ 12）	モジュラージャック（RJ-11）	
電源供給方式		AC アダプタまたはリチウムイオンバッテリ	
AC アダプタ仕様		入力 AC100V ～ 240V、出力 DC16V（3.36A）	
バッテリ		リチウムイオン 10.8V 1500mAh（内蔵バッテリ）、 4300mAh（内蔵＋増設バッテリ）（標準） リチウムイオン 10.8V 3000mAh（内蔵バッテリ）、 5800Ah（内蔵＋増設バッテリ）（大容量）	
バッテリ稼動時間（※ 15）		約 1 時間（標準）／約 3 時間（標準＋増設バッテリ） 約 2 時間（大容量）／約 4 時間（大容量＋増設バッテリ）	
バッテリ充電時間（※ 16）		約 2 時間（標準）／約 5 時間（標準＋増設バッテリ） 約 3 時間（大容量）／約 6 時間（大容量＋増設バッテリ）	
消費電力		約 58W 以下（AC 運用時）	
省エネ法に基づくエネルギー消費効率（※ 17）		0.0012（850MHz） S 区分 0.0013（800MHz） 0.0014（750MHz）	S 区分 0.0015
外形寸法　W × D × H		318 × 268 × 46.5mm（突起部含まず）	
質量※ 18		約 3.4kg	

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
「※印について」（••▶P.135）

■ FMV-675NU9/L

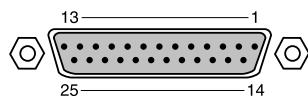
		FMV-675NU9/L
CPU（※ 1）		モバイル Intel®Celeron™ プロセッサ 750MHz
キャッシュメモリ		32KB ＋ 128KB（CPU 内蔵）
BIOS ROM		1MB（Flash ROM）
メインメモリ（※ 2）（※ 3）（※ 4）		標準 64 / 128 / 192 / 256MB（SDRAM） 最大 512MB（拡張 RAM モジュール 64/128/256MB、空きスロット× 1）
システムバスクロック		100MHz
内蔵ハードディスク（※ 5）		2.5 インチ 10GB / 20GB/30GB
フロッピーディスクドライブ		3.5 インチ［1.44MB / 1.2MB（※ 6）/ 720KB ］
マルチベイ		CD-ROM ドライブユニット（最大 24 倍速、平均 17 倍速） CD-R/RW ドライブユニット（書き込み／書き換え最大 4 倍速、 読み出し最大 20 倍速（※ 7）） マルチベイ用カバー のいずれかが搭載
表示機能	画面制御 / VRAM 容量	Intel® 社製 815EM（チップセット内蔵）/ 最大 7MB（※ 8）
	LCD（ドットピッチ）（※ 9）	14.1 型 TFT カラー 1024 × 768 ドット （0.279 mm）
	色数	1024 × 768 ドット：1677 万色（※ 10）
	外部ディスプレイ表示	最大 1600 × 1200 ドット：256 色
	同時表示	1024 × 768 ドット：1677 万色（※ 10）
音源機能		AC-Link 接続サウンドチップ（16bit ステレオ PCM）、 ソフトウェア Wavetable 機能内蔵、 内蔵スピーカー（ステレオ）、内蔵マイク（モノラル）
キーボード		一体型 OADG 配列準拠 93 キー（Windows キー、アプリケーションキー付）、 一体型親指シフト配列 95 キー（Windows キー、アプリケーションキー付） のいずれかが搭載
ポインティング デバイス		フラットポイント または無し（PS/2 マウス付）
内蔵 LAN（※ 11）		100BASE-TX/10BASE-T
内蔵モデム（※ 12）		データ：最大 56kbps（V.90）／ FAX：最大 14.4kbps
インターフェース	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type I/II × 2 スロット または Type III × 1 スロット（CardBus 対応）
	外部ディスプレイ	アナログ RGB Mini D-SUB 15 ピン
	パラレル	ECP 対応 D-SUB 25 ピン
	シリアル	RS-232C D-SUB 9 ピン（16550A 互換）
	拡張キーボード / マウス	PS/2 タイプ Mini DIN 6 ピン
	USB（※ 13）	USB コネクタ 4 ピン× 2
	サウンド	ヘッドフォン出力、ライン入力：φ3.5mm ステレオ • ミニジャック×各 1 マイク入力：φ3.5mm モノラル • ミニジャック× 1
	赤外線ポート（※ 14）	IrDA1.1 準拠 （最大 4Mbps）
	LAN	モジュラージャック（RJ-45）
	FAX モデム（※ 12）	モジュラージャック（RJ-11）
電源供給方式		AC アダプタまたはリチウムイオンバッテリ

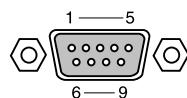
	FMV-675NU9/L
AC アダプタ仕様	入力 AC100V ～ 240V、出力 DC16V（3.36A）
バッテリ	リチウムイオン 10.8V 1500mAh（内蔵バッテリ）、 4300mAh（内蔵＋増設バッテリ）（標準） リチウムイオン 10.8V 3000mAh（内蔵バッテリ）、 5800mAh（内蔵＋増設バッテリ）（大容量）
バッテリ稼動時間（※ 15）	約 1 時間（標準）／約 3 時間（標準＋増設バッテリ） 約 2 時間（大容量）／約 4 時間（大容量＋増設バッテリ）
バッテリ充電時間（※ 16）	約 2 時間（標準）／約 5 時間（標準＋増設バッテリ） 約 3 時間（大容量）／約 6 時間（大容量＋増設バッテリ）
消費電力	約 58W 以下（AC 運用時）
省エネ法に基づくエネルギー消費効率（※ 17）	S 区分 0.0014
外形寸法 W × D × H	318 × 268 × 46.5mm（突起部含まず）
質量※ 18	約 3.3kg

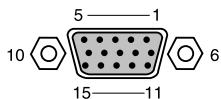
本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
「※印について」（→P.135）

※印について
※ 1 ：アプリケーションによっては CPU 名表記が異なる場合があります。
※ 2 ：ECC 機能付き拡張 RAM モジュールはサポートしていません。
※ 3 ：カスタムメイド対応でメモリを追加した場合には空きスロットはありません。
メモリを 512MB などに増やす場合は、あらかじめ取り付けられているメモリを取り外して交換する必要があります。
※ 4 ：VRAM に最大 7MB を使用しています。
※ 5 ：ハードディスク容量は、$1MB=1000^2$byte、$1GB=1000^3$byte 換算値です。$1MB=1024^2$byte、$1GB=1024^3$ byte 換算のものとは表記上同容量でも、実容量は少なくなります。
※ 6 ：本パソコンにインストールされている 3 モードフロッピーディスクドライバは、FMR/FM TOWNS でフォーマットされた 1.2MB フロッピーディスクを使用するためのものです。それ以外の機器でフォーマットされた 1.2MB フロッピーディスクは、読み書きできない場合があります。
※ 7 ：CD-RW モード時は最大 14 倍速。
※ 8 ：メインメモリ（Intel®Dynamic Memory Technology を使用）と共用しています。
※ 9 ：以下は液晶ディスプレイの特性なので故障ではありません。あらかじめご了承ください。
・本パソコンの TFT カラー液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に 235 万個以上（解像度 1024 × 768 の場合）の画素（ドット）より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
・本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
※ 10 ：液晶ディスプレイでは、ディザリング機能によって表示されます。
※ 11 ：LAN 搭載モデルのみ。
※ 12 ：モデム搭載モデルのみ。
56000bps は V.90 の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線の状況により変化します。V.90 の 33600bps を超える通信速度は受信時のみで、送信時は 33600bps が最高速度となります。また、日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては同規格での通信が行えない場合があります。
※ 13 ：全ての USB 対応周辺機器について動作保証するものではありません。なお、Windows NT ではお使いになれません。
※ 14 ：Windows NT ではお使いになれません。
※ 15 ：本体のみ、省電力制御あり、満充電および Intel®SpeedStep™ テクノロジ（FMV-675NU9/L 除く）による省電力優先モード時の場合。ただし、使用条件により稼動時間は異なります。
※ 16 ：MAIN スイッチ OFF またはシャットダウン時またはサスペンド時。ただし使用条件により充電時間は異なります。
※ 17 ：サスペンドモード（充電無。AC アダプタを含む）。なお、エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
※ 18 ：CD なしモデルは約 3.1kg。

コネクタのピン配列と信号名

■ パラレルコネクタ（D-SUB25 ピン、メス）

ピン番号	信号名	方向	説明
1	$\overline{\text{STROBE}}$	入出力	ストローブ
2	DATA 0	入出力	データ 0
3	DATA 1	入出力	データ 1
4	DATA 2	入出力	データ 2
5	DATA 3	入出力	データ 3
6	DATA 4	入出力	データ 4
7	DATA 5	入出力	データ 5
8	DATA 6	入出力	データ 6
9	DATA 7	入出力	データ 7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	$\overline{\text{BUSY}}$	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	$\overline{\text{AUTOFD}}$	出力	自動送り
15	$\overline{\text{ERROR}}$	入力	エラー
16	$\overline{\text{INIT}}$	出力	初期化
17	$\overline{\text{SLCTIN}}$	出力	選択
18 ～ 25	GND	－	グランド

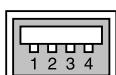
■ シリアルコネクタ（D-SUB9 ピン、オス）

ピン番号	信号名	方向	説明
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	－	グランド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

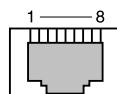
■ 外部ディスプレイコネクタ（ミニ D-SUB15 ピン、メス）

ピン番号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	–	未接続
5 ～ 8	GND	–	グランド
9	+5V	–	電源※
10	GND	–	グランド
11	NC	–	未接続
12	SDA	入出力	シリアルデータライン
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	シリアルクロックライン

※：MAX 300mA

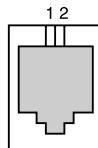
■ 拡張キーボード／マウスコネクタ（PS/2 タイプミニ DIN6 ピン）

ピン番号	信号名	方向	説明
1	KDATA	入出力	キーボードデータ
2	MDATA	入出力	マウスデータ
3	GND	–	グランド
4	+5V	–	電源
5	KCLK	入出力	キーボードクロック
6	MCLK	入出力	マウスクロック

■ USB コネクタ

ピン番号	信号名	方向	説明
1	VCC	–	ケーブル・電源
2	－ DATA	入出力	－データ信号
3	＋ DATA	入出力	＋データ信号
4	GND	–	ケーブル・グランド

■ LAN コネクタ（100BASE-TX/10BASE-T）

ピン番号	信号名	方向	説明
1	TD ＋	出力	送信データ＋
2	TD －	出力	送信データ－
3	RD ＋	入力	受信データ＋
4	NC	－	未接続
5	NC	－	未接続
6	RD －	入力	受信データ－
7	NC	－	未接続
8	NC	－	未接続

※ LAN 搭載モデルのみ搭載されます。

■ モジュラーコネクタ（モデム）

ピン番号	信号名	方向	説明
1	LINE1	入出力	公衆回線に接続
2	LINE2	入出力	公衆回線に接続

※モデム搭載モデルのみ搭載されます。

索引

記号

A

B

C

D

E

F

H

I

L

M

N

O

P

S

U

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

保証書について

・ 保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
・ 修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
・ 保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
・ 保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください)。
・ 修理後は、パソコンの内容が修理前とは異なり、ご購入時の状態や、何も入っていない状態になっている場合があります。大切なデータは、フロッピーディスクなどに複写して、保管しておいてください。
・ 本パソコンの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造終了後 6 年間です。

保守修理サービスのご案内

弊社では、保守修理サービスとして、以下の「契約サービス」「スポット保守サービス」を用意しております。
お客様のご希望、ご利用状況に合わせたサービスをお選びの上、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にお申し込みください。

■ 契約サービス

お客様と契約に基づき、機器管理を行います。
保守サービス料金は月額の定期保守料をお客様に負担していただきます。
料金は定額ですので、お客様の予算管理も容易です。

・ 定期保守サービス
トラブルを未然に防止するとともに、機器の機能維持を行うため、定期的に予防点検、整備調整作業を行います。万一の障害発生時には保守員がお客様に伺い、保守修理作業を実施いたします。
業務にご利用の場合などで、機器の使用頻度の高いお客様に最適なサービスです。
・ 定額訪問修理サービス
万一のトラブルの際に、保守員がお客様に伺い、修理作業を実施いたします。
・ 定額点検サービス
トラブルを未然に防止するための定期点検のみを実施する契約サービスです。
点検時の部品の交換、障害発生時の保守作業については別途有償とさせていただきます。

■ スポット保守サービス

必要に応じてその都度利用していただく保守サービスです。
保守サービス料金は、サービス実施の都度、お客様に負担していただきます。

・ スポット訪問修理サービス
お客様のご依頼により、保守員が修理にお伺いします。
修理料金はその都度ご清算いただきます。なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、訪問に必要な費用は別途有償となります。
・ スポット持込修理サービス
富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元にお持ち込みいただき、修理完了後に、お客様にお引き取りいただきます。経済的な費用で修理できます。
・ スポット引取修理サービス
お客様のご依頼により、弊社指定の運送業者がお客様をご訪問させていただき、機器を回収いたします。修理完了後に、お客様までご返送させていただくサービスです。
なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、往復の運送に必要な費用は別途有償となります。
・ スポット点検サービス
お客様のご依頼により、保守員がお客様を訪問させていただき、機器を整備・点検します。
機器の長期間の使用や移設作業後に点検を行いたい場合などにご利用いただけます。なお、点検時に部品交換などが必要と判断された場合は別途有償とさせていただきます。

＊アフターサービスなどについて、ご質問などがございましたら、富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口、またはご購入元へお問い合わせください。

FMV-6000NU/L，FMV-6700NU9/L，FMV-675NU9/L
FMV-LIFEBOOK

ハードウェアガイド
B5FH-2861-01-01

発 行 日　2001 年 4 月
発行責任　富士通株式会社